

議 事 日 程 (第 3 号)

平成29年 9 月13日 (水) 午前10時開議

日程第 1

一般質問

- |      |        |    |    |
|------|--------|----|----|
| 質問順序 | 1. 17番 | 神谷 | 里枝 |
|      | 2. 10番 | 竹内 | 祐子 |
|      | 3. 1番  | 福永 | 桂子 |
|      | 4. 6番  | 佐原 | 佳美 |
|      | 5. 4番  | 高柳 | 達弥 |

- 本日の会議に付した事件……………議事日程に掲げた事件に同じ
- 出席及び欠席議員……………出席表のとおり
- 説明のため出席した者……………出席表のとおり
- 職務のため議場に出席した事務局職員……………出席表のとおり

午前10時00分 開議

○議長（二橋益良） ただいまの出席議員は17名であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

本日は傍聴席へ報道機関が入っております。なお、撮影を許可した者には許可証を交付しておりますので御報告いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでございます。

○議長（二橋益良） 日程第1 一般質問を行います。

昨日に引き続き一般質問を行います。本日の質問順序は、受付順により、1番、神谷里枝さん、2番、竹内祐子さん、3番、福永桂子さん、4番、佐原佳美さん、5番、高柳達弥君と決定いたしました。

なお6番 佐原佳美さんより、参考資料の配付を求められたので、これを許可しております。資料はあらかじめ議席に配付させていただいておりますので、よろしく願いいたします。

初めに、17番 神谷里枝さんの発言を許します。  
17番 神谷里枝さん。

〔17番 神谷里枝登壇〕

○17番（神谷里枝） 17番 神谷里枝。通告書に従いまして、一般質問を行います。きょうは偶然女性議員4人がそろいまして、何かレディースデイのような感じですけども、先陣を切って質問させていただきます。

人口減少、高齢化社会に対応する移動手段の確保について質問をさせていただきます。

湖西市は平成25年にふれあいバス、そしてコーちゃんバスへ全面的な見直しを行い、平成26年、公共交通総合連携計画、そして今年度、公共交通網形成計画も策定されましたが、今まで思うような評価が得られていないという背景がございます。

そこで今回、湖西市の交通将来像でもある、誰もが利用できる安全・安心・快適に移動できる交通環境が充実した暮らしやすいまちを推進する目的で質問をさせていただきます。

質問に入る前ですけども、通告してあります質問

の順番を5番と7番を、また9番と10番を入れかえて行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） はい、どうぞ。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。では、そのようをお願いいたします。

最初に、今回、交通網形成計画が策定されましたのでお伺いいたします。地域公共交通網形成計画の策定に当たり、湖西市地域公共交通総合連携計画の成果や課題をどのように捉えましたか。お伺いいたします。

○議長（二橋益良） 答弁をお願いします。企画部長。登壇してお願いします。

〔企画部長 松本裕行登壇〕

○企画部長（松本裕行） それでは御答弁をさせていただきます。

平成26年度から平成28年度まで運用しておりました地域公共交通総合連携計画の成果につきましては、計画の数値目標であります誰もが乗れる地域公共交通の利用圏域の人口割合は、平成28年度の目標である95%以上に対しまして、実績では91%と目標には届いておりませんでした。また、年間のバス利用者が毎年継続して前年を上回る目標に対し、ほぼ横ばい傾向で推移しておりました。

地域公共交通に関する主な課題は、御指摘のとおり、誰もがわかりやすく利用しやすい公共交通サービスを提供することや、市民、事業者、自治会及び行政などが連携し、皆で公共交通を支える仕組みを検討していくということであると考えております。以上であります。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん、どうですか。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。この交通関係の計画はいろいろ変わってきておまして、なかなかつかみにくいところがあるんですけども、まずはこの総合連携計画のところで見ますと、まず26年から28年の間には、例えば計画にのっていたのが中尾平の実証実験について行うということが掲載されておりましたけども、こういった計画については、行政サイドはどういった対応されたんでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） ただいま御指摘の公共交通の連携計画におきまして、ただいまの指摘された地域におきまして、またほかの地域二、三、ございまして、その地域の方たちを対象に公共交通の不足をどういった形で充足するかという御要望等がございましたので、26年からそこについてを公共交通の確保ということでの前回の計画の中では進めていきたいということで計画の中に入れておりました。それを今度29年5月に今の交通網形成計画ができた折に、その反映についてどうなっているかということだと思います。

その当時に地域のほうから御要望あって、その計画にのせましたんですが、28年1月に地域の方たちに御説明・確認をさせていただいた中で、これについては地域のほうから、それは十分自分の車を使うとか、足については当時の思いから少し考えが変わられたということを確認しまして、必要性がないということではございませんが、御要望から一歩引いた形で今回の形成計画の中にはそれを盛り込んでいないということ、地域の方と御確認をしながら今回の計画に至っているということでございます。以上であります。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 計画にはのせていた。そして28年1月に地域において説明会を行ったけども、要望からちょっと後退した状況だったという、まずは地域説明会を行ってこういう結果に至っているという、そういう解釈をさせていただきました。

それからまた、連携計画の中で、では28年度まであって、国の方針で交通網形成計画に変わってきたんですけども、28年度までの計画は、まずは継承していく。交通網形成計画に継承していくという考え方はここは持っていてもよろしいのでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） そのとおりにお考えいただければよろしいかと思いますが、それにも増して、まだその時代時代のニーズに応じて、有識者会議の御意見をいただい中で、地域の皆さんの御意見をいただいた中で、それを向上しているというふうにお考えいただければと思います。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 引き継ぎ、さらによりよいものにしていくという御答弁でしたけども、そうしますと本当に、例えばですけども、コーちゃんグッズをつくるとか、それからバスアテンダントもどうのこうのということが載っていましたが、とても無理な話かなと、連携計画の中では見たんですけども、そういった中でコーちゃんバスのラッピングもたしか計画に入っていたような気がするんですね。確かに見回しましても、コーちゃんバスは数台そろったラッピングになってるんですけども、それ以外のところが結構違っているバスが走っているかなと思うんですけども、そういったところも交通網形成計画で今後5年間ですか、その中で検討していくという考え方でよろしいですか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） ラッピングという趣旨の中で、ちょっと角度違うかわからないですが、タクシーのほうの商品化ということの中で、そういった観光面を生かすという意味でのラッピングということもありますが、今の御趣旨が、申しわけございません、ちょっと理解しかねて答弁のほうがちよっとどうお答えしていいかわかっておりません。もう一度、御趣旨のほうよろしくお願いします。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） やはり利用促進していくには、地域住民に、コーちゃんバスだよということをよく理解してもらうために、目で見てもわかるように、コーちゃんバスが走っていったねってわかるようにするには、ばらばらな車ではなかなかわかりづらいかな。そこで利用促進を図る一つの手段としても、みんなそろった同じ絵柄のバスとかということができればなと思ったんですけども、連携計画の中にそういうことも書かれていたのでちよっとお聞きしてみました。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 湖西市内で走っているバスの中で、白いバスとラッピングしてあるちよっと大きさが少し大きいのと少し小さいコーちゃんバスという2種類があるかと思いますが、コーちゃんバ

スという分についてはラッピングはほぼ一緒ではないかと。一つ白っぽいバスが走っているというのが、浜名線といいまして、自主運行バスでございまして、コーちゃんバスという名称とは少し違った、以前民間のバスがそこで運営をしていたんですが、そこが成り立たないということで、それを継続するというで全く同じようなスタイル、バス停で運行しているのが自主運行バスでございまして、それが白いという部分かと思えます。

あと若干、今の白いのとコーちゃんバスはそういったことで少し目的と内容が違いますので違うと。ただ、コーちゃんバスについては大きいサイズとワンボックスカーみたいな部分がありますので、その辺はできるだけわかりやすい方法でこちらのほうから発信をしてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。2番目の質問に移ります。

策定委員会及び地区での懇談会などを何回開催しましたか。また、そこで得られた意見やパブリックコメントを通してどのような課題が見え、今回の計画に反映されましたか。お伺いいたします。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） お答えをさせていただきます。

湖西市地域公共交通網形成計画を策定する上では、平成28年度に湖西市地域公共交通会議を年5回、地域公共交通庁内分科会を年2回、グループインタビューを各地区で7回、交通事業者ヒアリング3回などを開催しております。そしてパブリックコメントにおきましては、ことし4月17日から5月16日まで行いました。

グループインタビュー、市民アンケートや乗降調査などから見えてくる課題をもとに、地域公共交通会議や庁内分科会で協議を行いまして、地域公共交通に関する課題を整理しました。そして湖西市が目指す交通将来像を設定し、地域公共交通網形成計画の基本方針へ反映をさせていただいたところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。地域での懇談会にも私もちょっと参加させていただきましたけども、そのとき配布された資料ではなかなかちょっと意見が言いづらいのかなという気もしないでもありませんでした。

そういった中で、先ほど答弁にもございましたが、パブコメを4月17日から5月16日まで行って、計画は29年5月に完了となっておりますが、パブコメを5月16日まで行って、もう29年5月にはこの形成網計画が完成ということは、パブコメ等の御意見というのは、この計画に反映されたのでしょうか。お伺いいたします。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 反映されていることと理解しております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） パブコメをちょっとインターネットで見させていただきましたけども、ほぼ近い部分是对応されたかなという部分もありながら、まだまだ慎重に寄せられた意見を検討してもいいのかなという感想は持ちました。

では、次の質問に移ります。

3番目、パブリックコメントを求めるに当たり、モビリティ・マネジメントや地域リーダー等、聞きなれない専門用語が多く含まれ、盛りだくさんの内容となっておりますが、市民が理解しやすい内容だと判断されたのでしょうか。私はもう少しわかりやすい資料の作成を検討されてはいかがかと思ひ、質問させていただきます。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） モビリティ・マネジメントや地域リーダーなどの用語は、国の地域公共交通確保維持改善事業において使われている用語でございます。しかしながら、市民の皆様には聞きなれない用語であるとの御指摘をいただきました。

今後このような専門用語を掲載する場合には、用語の解説をつけるなどして市民の皆様にはわかりやすい資料づくりをしてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ぜひとも、やはりそういう努力をされて利用促進を図っていかないと、なかなか利用者の増にはつながっていかないかなと思うんですね。袋井市などは高齢化時代における公共交通政策のあり方というので、本当にページをめくりましてもわかりやすい状況になっております。やはりいろいろ他市のよいところを参考にされて、湖西市民にも情報提供をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

では、4番目の質問に移ります。

今計画の中で特に力を入れ、市民ニーズに合致した利用促進策は何か、お伺いいたします。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 公共交通に関するわかりやすい情報を提供するための公共交通マップの作成や、公共交通を利用してもらうためのバス企画乗車券の導入、市民みずからが主体性を持って活動する「コーちゃんバスを上手に利用する会」の取り組みだと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） そうしますと、この29年度から33年まででしたか、この交通網形成計画。その中で今回一番市民ニーズに応じて進めていく施策といえますか、取り組む事業というのは、コーちゃんバスを上手に利用する会の活用といえますか、それということなんですか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） これも一つの手法ということで、いろいろな、きのう来から一般質問等でも市長のほうから御答弁させていただいている、若い世代の皆様の御意見、これがいろいろな御意見が出ようかと思っておりますので、また高齢者の方の御意見、またその意見を伺いながら、いろいろ取り組んでまいります。これはあくまでも一つの手法ということで御理解いただきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 私はやはり市民の皆さんからは使い勝手が悪いとか、乗り継ぎが悪い、そういうの全て含めるんですけども、あと料金の問題とか、

そういったことがあります。そういった中で特に力を入れていくというものをお伺いしたいなと思ったんですね。今までこういった計画が何回もされてきているんですけども、何かつかみどころがないという感じを受けているものですから、特に今回はこの5年間の計画の中で、これだけは何とか進めたいというものはないんでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 個別事業については何かというお尋ねだと思いますが、これを進める中で公共交通会議だったり、評価改善委員会だったりというのを定例的に先ほど開いているというお話を差し上げました。また、地域の方々から、あるいは一つの方法と市民懇談会ですとか、ただいま申しましたこれから開こうとしている若い世代、またいろいろな方の御意見を伺いながら、そういった聞くということから何をニーズとして捉えていって、どう改善していくかということが課題だと考えてございますので、個別事業、これだということもなかなか言いづらい部分がございますので、そういったところからまず考えていきたいというところを考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） いつも何かやはり、最近私たちのほうも意見をよく聞くようにということを申し上げているものですから、行政サイドもそういう対応してくださってることは理解できるんですけども、やはりどこかでは実際に実施していくというのが見えないと、いつまでたっても計画のための計画のように私はとれてしまっているものですからお伺いしました。

では次の質問に移らせていただきます。

○議長（二橋益良） 項目5番ですね。

○17番（神谷里枝） 7番と入れかえて。

○議長（二橋益良） 済みません。項目7番を先に行います。

○17番（神谷里枝） 7番を先にやらせていただきます。

ここからは交通弱者対策について質問をさせていただきます。

高齢者の事故防止のための施策について、一般介護予防事業の中で取り組んでいると伺っておりますが、その状況をお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） 今年度、新規事業といたしまして、高齢者が自身の自動車運転について自覚し、安全な運転を行うことで自立した日常生活を継続できるように、シニア健康ドライビング教室を委託により実施いたしました。

対象年齢は65歳から74歳までで、5月から6月にかけて8回のコースとして実施をし、参加者は15名でございました。

内容といたしましては、老化と運転、法改正についてなどの講義、それからパソコンを使った認知能力や身体機能の向上トレーニング、自動車学校における高齢者講習などを行ったものであります。

教室終了後のアンケートでは、満足度が高く、「運転を見直す機会となった」、あるいは「自分の状態がわかり、今後の運転に役立つ」などの感想も聞かれ、一定の成果が上がったものと考えております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 年齢を65歳から74歳にしたという、湖西市ではシニアというところからそういった年齢という情報が共有されているのでしょうか。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） 特にシニアということで湖西市で定義しているということではございませんが、まず介護保険の事業ということで65歳以上の方を対象にしたというものでございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） この事業は委託によって8回コース、15人の方が申し込んで、8回のコースの中で実施をされたという解釈をまずはさせていただきます。

そういった参加された方の中から、先ほどちょっと感想、意識づけができてよかったかというような感想があったと思うんですけども、このシニアドライビング教室という、これを開催する目的は、本

人が運転能力が衰えているということを認識していただくために、こういった教室が開催されるのかなと思うんですけども、まず、この教室を開催する、した目的というのを確認させてください。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） この教室の目的といたしましては、まずは高齢者御自身が御自分の身体の状況とか、認知機能の状況を自覚していただいて、今後運転に当たって気をつけること、そういったことの気づきを得ていただくということがございます。そうしたことによりまして、引き続き運転を継続したいという方につきましてはその事故の危険性の軽減のためのセルフマネジメントができるようにしていただいて、自立した日常生活、社会参加含めて、継続を目指していただくという目的で実施をしたものでございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 高齢者の事故が多いということからこういう事業も出てきているかなというふうに思ってるんですけども、そういったときに年齢を制限する必要ってあるんでしょうか。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） 今回初めて、今年度試みたということで、今回はこのような形でさせていただきますけれども、また事業の内容を検証しながら、あと応募の状況等も確認をしながら、来年度以降もできれば継続したいと考えておりますので、その中でそういった年齢をどうしていくかということも改めて検討したいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） やはりそういった継続というのはぜひやっていただきたいと思っておりますし、高齢者が多く集まる機会等を利用して、やはり事故防止には努めていていただきたいと思っております。

そういった中で、運転能力の衰えを自覚してもらい一つの方法として、家族でも本人でも簡単にそれをチェックできる運動行動チェックリストというものもあるようなんですけども、またそういった点も当局のほうで研究されて、例えばスマホから簡単にできるよとか、何かそういった方法があれば、よりい

いかなと思いますので、その辺はちょっと御助言させていただきます。ありがとうございます。

では、広報もやっていっていただける。次年度以降もまた検討していくという確認をもう一度させていただきます。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） この事業は、先ほど申しあげましたように、一定の成果が上がっているものと考えておりますので、引き続き内容を検証しながら来年度以降も継続をしていきたいということでございます。

それから、一つ提案のありました高齢者あるいは御家族の方がチェックできるようなリストをというお話ですが、子どもでも調べましたら、幾つかそういったチェックリスト、出されているようですので、そういったものが一番わかりやすいか、利用しやすいかというところを研究する中で、ホームページなりへの掲載も検討していきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。ぜひともよろしく願いいたします。

6番目の質問に。

○議長（二橋益良） それでは次に項目6ですね。

○17番（神谷里枝） はい、6番です。高齢者の事故防止のため、今年度より運転免許証自主返納者へのバス無料券、2年間分ですけれども、交付が行われておりますが、市民の反応、また申請状況をお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 警察への運転免許証の自主返納者は、平成25年から平成28年度末までで695人となっております。そのうち、バス無料券の交付でございますが、平成29年4月1日からの施行ということになっておりますが、平成29年4月から8月末までの現在で121人でございます。

また、バス無料券交付者の利用状況であります。毎月延べ約300人ぐらいの方が利用をされております。市民の皆様からは、乗るきっかけになったなどの御意見をいただいているところでございます。

以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 今年度の事業については121人が返納されて、月に300人ぐらいが利用されているということですが、返納者の中でどの地域が多いかということはいかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 人数でいましては人口規模によって違う部分がございますので、率で申しますと、まず全体で申しますと121人というのは全体で0.2%という数字でございます。その中で白須賀地区ということで申しますと0.4%強というところが平均から申しますと返納者が多い。次いで新所地区、知波田地区といったところが0.2%強といったところでございます。以上であります。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。こういったことから今後の湖西市の公共交通、どこにどう力を入れていけばいいかということが見えてくるかなと思えました。

湖西市の免許保有者というのが約4万2,200人強いると思うんですけども、そういった中で75歳以上の方が2,600人から3,000人ぐらいいるかと推測されるんですけども、そういった数字に対しまして、今現在の121人が返されたということに対して、どのように感じ取っていらっしゃるでしょうか。もう少し、もっとやはり積極的に自主返納者が出てくるといいかなと思っているのか、強制的に返納させるわけにはいかないのかそういった本人さんの判断に基づいて行政としては対応していくという捉え方いらっしゃるか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 今の趣旨から申しますと、自主返納をさせたほうがいいのかどうかという、その辺の捉えという。企画部のほうでのこの制度につきましても、自主返納をされた方についての利点という部分でどういうふうにしてその足が、公共交通がなくなった部分をどう補填していくかという制度の中での無料乗車券を25年から、2年間でございまして、お渡しをするということでございますので、

これは交通安全だったり、あと自分の命は自分で守るといふ部分の自分の自己管理という分と、危機管理という部分と、あと交通施策の中での方向の中で自主返納という推進があるかと思っておりますので、まず私のほうからはそういった方たちの足の確保というところからいきますと、返納された方はこの制度を御活用いただければというところで御回答をさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） わかりました。返納された方は、本当にその後の生活の足の確保をというところで湖西市はこの制度を取り入れているということですね。

ちょっと済みません。先ほどの5番と絡んでしまいかもしれないんですけども、例えば返納したいけれども本人がそうは思っていないとか、返納させたいけれどもどうしたらいいかというような相談といひますか、そういったのはそうすると企画部ではなくて健康福祉部で対応してるんですか。湖西市の中ではそういった相談はないんでしょうか。ちょっとその辺、ごめんなさい。どちらに行くかわかりませんが、ちょっとお聞きしたいなと思うんですけども。返納する、させるに当たっての相談ということですね。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 私のほうでお答えするのは、先ほど申しましたように利用される場合にはということになるんですが、当然その自主返納の中でも御相談は当然それぞれの部署、危機管理のほうは、警察のほうとの連携の中で交通安全という部分からそういった御相談があるやと思っております。ただ、それは御家族の中での御紛争になってもいけませんので、その辺は丁寧に、御相談があったときにはそれぞれの受け持った部署でそれなりに御対応していただいているというふうには私は理解しておりますが、いかがでしょうか。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。たまたまきのうでしたか、新聞が出ましたね、高齢者の75歳以上の方の免許返納。やはりすごく相談がふえているということがあるものですから、例えばそう

いった相談を市役所へ持って行ったらどこか、警察のこういう窓口があるからそこへ相談に行ったらいいですよとか、そういうアドバイスをしてくださるんでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） ダブルの御回答になりますが、今湖西市のほうで直接ピンポイントでそういう窓口をやってますという発信はしておりません。ただ、今、市民協働課のほう、企画部のほうでそういった自主返納に関するそういう制度を御活用する場面で、今後ということでの御相談があれば、私どものほうの部署で御説明をしながら、また危機管理だったり、自分の命は自分で守るといふことでありながら、返納するときに1,000円の補助で身分証明書をくれるという、それは危機管理のほうでの部署になりますが、そこで御相談をされるようであれば、危機管理のほうで丁寧に御説明をしていただいていると思ひますし、それぞれの部署部署で御相談があれば、また警察のほうへ、余りうちがだめなので警察へ行けてそういう意味ではございませぬが、そういったことで警察のほうでも自主返納しますと、例えばあるお店へ行きますと、クッキーが、例えばですけども、何かの割引がきいたり、少しコーヒーを飲むとクッキーが出るとか、そういう協賛店を拡充しているというのを、署長発信でどんどん推進しているということもありますので、そういう意味からも警察署のほうも丁寧な御助言がされているのではないかと推測をしております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） やはり免許ということですので、警察との連携が大事になっていくと思ひます。今後、本当に団塊の世代が75歳以上になっていく2025年ですか、それ以降さらにこういった相談といふのはふえてくるかなと思ひますね、本人が納得しないとか認めなくて。そういったときにやはり行政サイドも警察と連携をしっかりとって、御家族等が困らないような相談体制、紹介だけでもいいですので、明確にしておいていただけると助かるかなと思ひます。

では次の質問に移ります。



○議長（二橋益良） それでは5番ですね。

○17番（神谷里枝） はい。湖西市の目指す交通将来像のための一つの手法として、バス利用料金助成事業で発行しております利用券を、タクシーにも使える制度にしてはどうでしょうか。これ、何回も質問させていただいておりますが、お伺いします。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） 高齢者のバス利用料金助成事業につきましては、高齢者の経済的負担の軽減と社会活動の促進を図ることを目的としまして、平成25年度から実施しております。

この間、高齢者による交通事故が社会問題化するなど、高齢者を取り巻く交通事情が変化し、また助成券利用者の中からは、「タクシーにも使うことができれば、より便利になるのでは」といった御意見も確かにいただいております。

そうしたことから、現在、事業の見直しに着手をしております。今後、高齢者からの意見の聴取や関係機関・関係部署との協議などを行い、タクシー利用の導入に向けた具体的な検討を進めていこうとしているところでございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。少しずつ前向きな御答弁をいただいているかなという感触を得ております。

やはりなかなか交通網の整備といっても、本当に時間と費用を要します。まず私が考えるには、一番まずやりやすいのが、この制度を使い勝手のいい利用券に変えていく。確かにそうしますと利用する方がたくさんふえてきて、また予算づけが大変になるかもしれませんけども、やはりそれは市民の足の確保をしっかりしていくという考えに基づいていけば、やらなければならない事業かなと思っておりますので、ぜひ早いうちに実施できるようにお願い申し上げます。

では、次の質問に移らせていただきます。

○議長（二橋益良） 項目8ですね。

○17番（神谷里枝） はい。ここからは公共交通を維持発展させるための手段について、お伺いしてまいります。

8番。現在の湖西市の交通環境を考慮しますと、車なしでは本当に生活に大変不便を来すことは明白な事実であります。高齢者対策は最重要課題で、早急に取り組まなければならないと考えますが、市長のお考えをお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、議員御指摘のとおりですし、今までの質疑の中にもありましたけれども、やはり運転免許をお持ちでないという方にとってのこの湖西市で交通環境というのは、やはり不便なものになってしまうと、現状そうであるというふうに私も認識をしているところです。

現在、先ほど来答弁にもありましたとおり、高齢者の方々への施策としての高齢者バスの利用料金の助成であるとか、運転免許証の自主返納者への2年間のバス無料券の交付というものを実施してまして、今健康福祉部長からもありましたけれども、タクシーへの利用拡大というのは、今導入に向けた、実際に具体的な検討というか調整をいただいているところですので、そこは前に進めているというふうに認識をしておりますけれども、やはり今後につきましては今申し上げたタクシー利用の拡大に加えまして、もしかしたら、先ほど問いの4番のところでも補足的にお答えしてもよかったのかもしれませんが、やはりこれからは今ある地域公共交通の空白地域というものを解消するためには、今までのこのコーちゃんバスというものが時代の流れによって路線バスだけでというようなものではないかというようなものも感じていますし、実際にほかの自治体とか、もっと過疎の地域では実際に導入している例もありますけれども、いわゆるデマンド型交通といいますか、乗り合いタクシーのようなものといったほうがいいかもしれませんけれども、呼び方はともかく、そういったデマンド型の早期の導入に向けて今実証実験の検討を進めていただいて、担当のほうで頑張っているいろんな先行事例とかを研究していただいているところですので、これももう間もなく概略については御相談といいますか、御説明ができるかと思っておりますので、その制度設計がほぼできたということは、こ

の場ではまず御報告をさせていただいて、しっかりとその中身につきましては、また御説明をさせていただきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 御答弁ありがとうございます。今の市長の御答弁を伺っていると、やはり市民の足の確保ということに対して、積極的に前へ進めていこうという意欲を感じることができまして、大変うれしく思っております。自主返納者への足の確保も、地域の特性を見ながら取り組んでいくということですので、やるやるで、やらないではなくて、やると言って実施していただきたいと思いますというのを強く感じております。

そういった中で、今、先日の新聞にも載ったりしてたんですけども、踏み間違い等による事故を防止するための装置とか、あと安全運転サポート、セーフティサポートカードか、いろいろ出てきております。なかなか高齢者の方が車を乗りかえるというと何百万というお金を出して、なかなかそういった車の購入というのは苦しいかなという気もしないではないんですね。そういった中で誤発信防止装置も一部の情報によりますと、取り付け時間が1時間ぐらいで単価も4万ぐらいで何か誤発信防止装置が取り付けられるとかという情報もございます。そういったこと、まだ本当の安全性の確保というのがそういった業界でされていないかもしれないんですけども、市長もよくこのごろ国会へ陳情活動、積極的に行ってくださいっておりますので、湖西市のこういった状況を鑑みまして、より都市部と違った、地方の地域の交通網整備に対しまして、また高齢者の事故防止等に関しまして、そういったセーフティカーを導入しやすい状況とか、前、エコカー導入の減税とかいろいろありましたね。そういったのを実際に困っている地域の市長として、国にまたいろいろ要望して、市民の皆さんがより購入、導入しやすい状況をつくっていただけたらなと思ひまして、そういったことも今後陳情に加えていただいたらどうかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

先ほど公共交通というお話でしたけれども、先ほどの自動車に関しまして、マイカーとかですね、それももちろん事故防止だとか、運転の誤作動防止というのは非常に重要だと思っておりますし、今いろんな交通事故防止の会議も湖西市主催含めて参加をさせていただいてますけれども、そこでも湖西警察署の方々も、その高齢者の事故防止というのはすごく重きを置いて、今、秋の交通安全運動などもされてますけれども、そういうところで重点的にやっていただいておりますので、これは湖西市として今議員おっしゃった必要な交通事故防止の施策であれば、これは湖西市としてももちろん警察署というか、関係、県も含めてですけれども、要望はしていきたいと思っておりますし、その具体案等またあれば、ぜひアイデアは皆さんから募って御提案いただければありがたいというふうに思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。よろしく願いいたします。

では次の質問に移らせていただきます。

○議長（二橋益良） 入れかえまして10番からですね。

○17番（神谷里枝） 10番のほうです。

地域公共交通を維持活性化させるための財源確保として、地域特性を生かした交通インフラ整備を目的とした基金を創設してはいかがでしょうか。お考えをお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

まずは近隣の状況もヒアリングというか、担当のほうでも調べていただきましたので、まずその例を御説明させていただきますけれども、豊橋市、隣の豊橋市では地域交通活性化基金というもので、路面電車、御存じのとおり豊橋では路面電車走ってますけれども、その購入をするために基金を募ったと。路面電車を新しくするための購入資金として基金や国からの補助金を充てているという例があると聞いております。

もちろん、いろんな基金はほかにも種類は全国的にあるのかもしれませんが、湖西市を翻って

見てみますと、やはり交通の事業者の方々、今コーちゃんバスのお話もありましたけれども、事業者の方々がバスによって運用していくということをまず前提に事業者の方々を選定していますので、この現時点での、きのう来ありますけど、財政事情が厳しいということもありますし、東日本の震災があって以降、これは国の施策としてもやはり安易な基金の創設はしないようにというようなことも一斉にありました。基金が結果的に自治体ごとの財布というか、たまり金になっていて、ずっとたまりっ放しというような議論も2011年以降あって、かなりの基金を召し上げられ、召し上げるといってあれですけども、廃止をしたりとか、もう必要なところに予算はつけていくというような体制が当時の総理官邸から各省全てに対して指示が出たのも、よく、それは当時の覚えておりますので、やはり安易な基金でたまり金をしてしまうと、もちろん運用上、複数年にわたって使えるというのは便利ではあるんですけども、真に必要なものに限るといような状況もありますし、例えばこれは昨年も財務省の財政制度等審議会、いわゆる財審でも議論の対象になって、これは財政調整基金に関しても今の交付税の交付金、交付団体のほうが逆に基金がたまっていて、湖西市は不交付団体ですけども、湖西市だとか、ほかでいうと横浜市のような地方交付税の不交付団体が逆にそういった基金が枯渇していて、自転車操業になっているというような御意見も聞いているところですし、実際その意見を受けて今、私のところにも財務省の担当のほうから基金の実態だとか、そういったもののヒアリングも複数回ありましたですし、総務省からも実態について今調査をしているというような話も県の市長会等々でも聞いているところですので、なかなか安易に今基金を、じゃあこれでつくりますよというわけにはいきませんし、やはり交通インフラの整備というものは必要であればしっかりと財政事情が厳しい中でも予算措置をしていくというようなスタンスで臨みたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。

そういった中で、例えば湖西市ですと地域福祉基金というのがありますね、本人さんから多分御意向があってそういうところへ積んでいって、数億というお金が積まれているかと思うんですけども。例えばそういったものを地域福祉という幅が広いんですけども、そういったことは考えられないのでしょうか。それをその中へ基金として寄附できる方がいたらそこへ例えば積んでいって、公共交通のほうへ使っていくという。基金そのものがいかなものかという国の指導があるということは承知なんですけども、やはり公共交通、なくてはならないものです。でも、事業者だけの負担でももうやれなくて、だから路線の廃止とかいろいろも出てきておりますし、コミュニティーバスは収支率が上がらないですよ、はっきり言いまして。そういった中でどうやって財源確保をして、この公共交通を維持していくのかと考えたときに、私はそういう意思のある方から寄附をいただいて、実際に公共交通の維持等にに使わせていただいたらどうかと考えたんですけども、そういったことがなかなか難しいということであれば、市長として、財源確保をどのような考えでいかれるのか、お伺いしてみたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

基金そのものは、今の創設というのは難しいというのは申し上げたとおりですけども、今ある基金、財政調整基金は別としても、ほかのいろんな公共事業もそうですし、今議員おっしゃった福祉関係の基金もあります。奨学金関係の基金もありますので、その基金は基金として、やはり設立当初の目的があって、先ほどの御意思というか、御厚意でいただいた、やはり御寄附というか、そういったありがたい志を頂戴しての基金ですので、その目的にかなった使途にする必要があると思っておりますので、その目的にかなっているかどうかというのはやはり予算の中でも吟味した上で、そこは使途を決定していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） 基金に関しては御意見を伺いました。本当にいろんな意味においてお金がない、

お金がないというふうになってきておりますので、ある意味利用者に負担をしていただくということも考慮しながら進めていかなければいけない事業かなと感じております。よろしくお願ひいたします。

では最後の質問に移らせていただきます。

○議長（二橋益良） 最後、項目9ですね。

○17番（神谷里枝） はい。公共交通を支える主体は住民自身であるという認識高揚と、地域活性化をいかに進めるかという観点から、誰もが自由に参加でき議論できる場やシンポジウムの開催などを行ってはいかがかと思ひ、質問させていただきます。よろしくお願ひいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

先ほど前半の答弁でもあったかもしれませんが、やはり今、市民の方々みずからが主体性を持った上で、地域の公共交通を育んでいただくと。そういった仕組みを構築するために、企画部長からもありましたけど、コーちゃんバスを上手に利用する会というものを、ことしの5月から立ち上げて、小学生の乗り方教室ですとか、公共交通のイベント等々で協力をいただいているところであります。

また、地域のやはり地域地域の実情に即した公共交通のサービスについて協議して、よりよくしていただくために、市民の代表の方々でありますとか、自治会連合会、老人クラブの連合会ですとか、そういった市民団体の方とか、もちろん交通関係の事業者、そういった関係の方々の方が委員として地域公共交通会議には御参加いただけてますし、バス運行評価改善委員会といった改善委員会でも御議論をいただいているところですので、そういったものは引き続き開催をしていきたいと。そこでよりよい公共交通のサービス向上には努めていきたいというふうを考えておりますし、そのほかにも、私も就任直後に行わせていただきましたけれども、市民懇談会でありますとか、そういった地域の皆さんから多様な意見とかアイデアを募っていく場はこれからも地域地域でつくらせていただくというふうを考えております。

また、きのう申し上げて、きょう報道もいただきましたけれども、やはり若い世代の方々に湖西市の

魅力を発信するというような議論、意見交換をいただければと思っておりますし、そういったところの、形式に捉われず、さまざまな意見は聞いていきたいと思っておりますので、現時点で公共交通に絞った形でシンポジウムというものは考えておりませんが、市民懇談会ですとかさまざまな機会、これからももちろん議会のほうでもいろんな説明会やっておりますし、教育委員会のほうでもこれから公共施設、学校も含めた説明会等々も行っておりますし、そういった地域地域に出かけて行って、意見交換をする中でも多数の意見をいただく場の中で、こういった形式がいいのかというのは考えていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） そういう交通会議等やっているということは承知しております。なかなかそういったセッティングされたような場に出ていくという方はいろんな役をやってらっしゃる方が多いわけでありまして、やはり市民の足を確保していくという観点から考えますと、そういう役についての偉い人よりも実際に乗る人、または経営者はもちろんですけども、例えばタクシーの運転手さんだったら、実際にお客さんの声を聞いたりするわけですよ。だからそういった実際に利用者として接する方が出てきて、意見を聞くとか発信してもらえる場、そういったことが必要ではないかと思ひます。

シンポジウムのほうも開催する予定はないということでしたけども、今回は私は公共交通について質問させていただいてるわけですけども、やはり今、湖西市もずっと一人の、一人のといったら失礼ですけども、知識者にアドバイスをいただきながら計画を練ってきていると思ひますが、やはり今、いろんな学者さん、また知識者もいろんな考え方の方がいらっしゃいます。こういった方法もあるけども、また違った方法もあるという気付きもあるかなと思ひますね。そういったときに費用がかかるというふうに考えるのであれば、たしか補助制度があると思ひます。だからもうこれしかないという考え方ではなくて、幅を広げてもう少し違う意見を聞いてみてもいいのではないかという気がするんですけども、

その辺はとにかく持ち合わせていない、今の公共交通会議のメンバーで進めていくという、そういうことなんでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） 今おっしゃるちょっとまあ公共交通会議のメンバー云々というのは、当然、時によってまたメンバー、委員の皆さんの委員改選とかというのはあると思いますし、それは時期ごとにあると思うんですけども、形式的にシンポジウムというのも、シンポジウムがよければもちろんそういった開催形式もあるとは思いますが、先ほどおっしゃったタクシーの運転手さんとか、そういうのは普通に街角のヒアリングだとか個別に、今市民経済のほうで、公共交通に限らずですけども、いろんな企業に訪問していただいて、今後の、きのうもありました産業政策だとか、そういったことは個別にお聞かせいただいているので、その中でそういった個別に聞いていくということはぜひお声を聞かせていただくということはやっていきたいと思っていますし、なかなか設定された場だと決まった方がというのがありますし、発言もなかなかしにくいというのはありますので、やはり個別に聞いて、そこで個別にお声を聞くというのが重要なという思いも持っています。それはいろんなやり方の中で、やり方を考えていけばいいというふうに思っていますので、別に今絶対このシンポジウムやりませんとかというものではなくて、別に公共交通に限らず、そのいろんな意見交換の中で公共交通も議論したらいいと思いますし、その中でテーマを決めてやるということがよければそれは設定するということだと思っています。

あとの人選に関しては、別にそれは未来永劫一回選んだ方々というものではなくて、そこはさまざまな当然有識者会議というのはあると思いますので、公共交通も含めて、そういった有識者会議のあり方は当然時期ごとにしっかり規定の中で柔軟に運用していきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 神谷里枝さん。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。やはり私はある程度テーマを絞って市民の意見をくまな

く拾い上げていくというのも一つの方法かなと思っていますので、ぜひお願いしたいと思います。

公共交通を成功させるためには、やはり地域住民の意識の高揚と財源確保かなと考えております。人口減少、また高齢化時代に対処する公共交通網の整備を一刻も早くされることを御期待申し上げまして、私の今回の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、17番 神谷里枝さんの一般質問を終わります。

それではここで暫時休憩といたしたいと思います。再開は11時15分といたします。

午前11時02分 休憩

午前11時15分 再開

○議長（二橋益良） それでは休憩を解いて、会議を再開いたします。

ただいまの出席議員は18名です。

次に10番 竹内祐子さんの発言を許します。10番 竹内祐子さん。

〔10番 竹内祐子登壇〕

○10番（竹内祐子） 10番 竹内祐子。ただいまから一般質問いたします。今回は2つのテーマで質問させていただきます。

初めのテーマは、人が育つまちづくりにつながる東京2020オリンピック卓球チームの事前合宿についてを質問させていただきます。

質問しようとする背景は、8月15日から25日まで、アメニティプラザでスペイン卓球チーム2020東京オリンピック事前合宿が行われていました。この合宿は、6月定例会でスポーツ活動推進費495万6,000円を補正したものです。事業の目的は、合宿の様子や交流会などを通じ、東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高めること。多文化交流や卓球競技人口が増加すること。湖西市を国内外にPRできること。成果は国際交流の推進、スポーツ普及を推進することで、総合計画におけるまちの姿、ひとが育つまちづくりへ役立てていくという説明がありました。

今回の事前合宿を地域活性化につなげるためには、

今から準備をしていかなければ、市が成果とするものは形だけのものとなると考え、質問することにしました。

質問の目的は、2020年東京オリンピック・パラリンピックで地域活性化を目指すために行います。

最初の質問。スペイン卓球チームは2020東京オリンピック事前合宿を行い、成果と課題を伺います。

○議長（二橋益良） 教育長。登壇してお願いします。

〔教育長 渡辺宜宏登壇〕

○教育長（渡辺宜宏） ただいまの竹内議員の御質問にお答えをいたします。

成果としましては、湖西市内の小学生、中学生、高校生及びアスモ女子卓球部、浜松修学舎高校との合同練習において、スペイン選手の世界レベルの技術指導をいただいたことなどは、卓球関係者から高評価をいただいているところであります。また、湖西の文化に触れる機会も設けましたので、文化交流も図れたことが成果だと捉えております。

課題といたしましては、7月5日の覚書締結式から事前合宿の受け入れまでの期間が短かったことと、スペインとは時差があり、日程調整に手間取ってしまい、余裕はなかったことであります。また、親善試合を開催し、市民に観戦していただきましたが、市民へのPRする期間が短かったことを反省しているところであります。以上でございます。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん、いかがですか。

○10番（竹内祐子） ただいまの答弁で、今、担当課さんが反省されたことを伺ったわけなんですけれども、確かに見えても成果としては今言われたように交流が図られていたのでよかったなと思います。子供たちにも高レベルな技術の披露というか、そういうものを見せてあげられる、実際教えてもらえるということはよかったと思っています。

課題としてはやはり受け入れ期間が短くて手間取ってしまったよということで、私思うんですけれども、平成27年5月に県へ卓球競技の事前合宿の誘致をしたいということを申し出ておって、平成29年2月には県からスペイン卓球チームがアメニティプラザで事前合宿先をしたいという連絡があったと。そ

れで見に来たりとかしてござって、6月の補正でお金をつけたんですけれども、27年5月からもうこの事前合宿を誘致したいという考えがあったと。29年2月にはスペインさんのほうから行きたいと言われていたのに、何か、今、受け入れ期間が短かったという御答弁だったんですけれども、ある程度のところは準備をしてもよかったのではないかなと思うんですけど、そのところはどうなんでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 今の質問にお答えします。

実は誘致には、県を通して県から国へということをお願いをしている。その逆をたどってきて、ことしになってからスペインがこちらで合宿をしたいというふうなことで会場とかそういった事柄を見て、やはりやりたいということで進んできたということなので、実際進んだのはことしの5月以降ぐらい急激に進んできたというふうに私は捉えております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） ただいまの答弁でわかりましたけれども、5月から準備したときに、もう時間もないからちょっと焦ってますね。そういうときに、なぜもっと多くの人たちとの協力をして行おうとしなかったのか。そここのところがちょっと今回見てて思ったんですけれども、そのことは5月の時点では考えられなかったということではよろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） その5月の時点でのというのは、締結をして、卓球のほうで、今回の合宿で主に何をこういうふうにやりたいとか、そういったこともまだつかむ時間がなかったということで、実際は締結を結んでから向こうとのやりとりをしたと。しかも、向こうとは時差が7時間ぐらいあって、こちらで連絡しても結果が来るのが次の日、あるいはその次の日というふうなことで、どんどんどんどん時間が過ぎてしましまして、実際その練習の日程とか、そういったのも直前でないできなかったというのが事実でございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） よくわかりました。では次、

2番目に行きます。

スペインからは2020年まで毎年の合宿を望む声もあるようですけれども、市の考えを伺います。

○議長（二橋益良） 教育次長。

○教育次長（落合 進） お答えいたします。

今回のプレ合宿ですね、8月に終わったわけですが、そのスペインの卓球チームが母国に帰りまして、スペインの卓球連盟へ今回のプレ合宿の報告をするわけですが、2020年までの合宿の申し出については、あるかどうかについて今のところ情報は把握してございません。

スペインから来年度の合宿の申し出があった場合ですが、あれば、合宿条件等を検討し、受け入れ体制を整えた上で判断をしていきたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） わかりました。またあればあったで検討をしていただきたいなと思います。

3番目行きます。

オリンピックに向けて、国が推進しているホストタウンとして登録し、まちおこしへつなげていく考えはないか、お伺いいたします。

○議長（二橋益良） 教育次長。

○教育次長（落合 進） 来年度以降の合宿については、スペインとの協議となります。2020年まで継続して合宿の受け入れを承諾することを想定しまして、ホストタウン登録に関して県内の状況等を調査して検討いたしました。

登録をするためには、オリンピックの事前合宿の受け入れのほかに、スペインと湖西市民との交流や、日本人のオリンピック選手、またパラリンピックの選手と市民との交流、またオリンピック終了後も継続して交流する事業を計画に盛り込むなどが条件でございまして、事前合宿以外の財政的な負担が大変大きく、登録のほうを見送っているわけでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） ありがとうございます。財政的負担が苦しいと。

このホストタウン制度は、政府が主導で申請を受

け付けているもので、活動費の50%を交付税で国が負担するほか、施設の改修に当たっても地方債によって後押しをしていただけるものです。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、やはりスポーツの振興、国際交流、まちおこしなどを目的として設けているもので、平成28年1月現在でもう44件ぐらいの申請もあった状況でありました。そして、ことし7月7日現在で179件の登録があります。静岡県でも11市が登録されています。ついこの間も牧之原市とかテレビに出たり新聞に出たりいろいろしています。そのまちの人たちもやはり多文化共生の社会の実現とか、スポーツ振興、観光誘客による交流人口の増加でまちを活性化していきたいという狙いでホストタウン制度に登録をされているわけです。

今回、事前合宿誘致されて、やはり約500万近いお金を投資しまして、それなりの成果が上がったかどうかはよく私はわからないんですけれども、一生懸命新聞報道もされてましたし、実際、親善試合のときにも300人近い市民の皆様もごらんになっていただきたりとかしたので、それなりの500万という価値に値するものだと思います。

それで、今回そういうふうにしたことですから、私としては今後もこれからの子供たちのことを考えますと、これから本当に国際交流、多文化共生社会の実現というのは大事なことであり、今後また2020年においていただくときに対しても、やはり市民全体がそれなりの成果を得られるようにしていかなければいけないと思うんです。やはり東京オリンピック・パラリンピックを成功させるということも大事だし、それにかけて日本全体の各地域がやはり地域を活性化していくということも大きな狙いだったと思うんですね。

ですから、ホストタウン制度にやはり登録をして、もう少しスペインとの友好を、交流をしていったらどうかと思っております。施設のほうの改修なんかもやはりそのところで思い切ってやっていって、やはり湖西市のアメニティプラザは結構スポーツの方たちにいっぱい利用されていますので、まだサブアリーナも冷暖房も完備してませんし、アメニティ

の施設の改修状況も課題になっておりますので、そういうのも兼ねながら、今ある施設も改修しながら多文化交流や地域活性化も目指していくということで、いま一度ホストタウン制度をやったらどうかと私は思っております。財源が確保できるならば、教育長はやってみたいというお考えなんでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 今の質問にお答えします。

先ほども言ったように、子供たちが広い視野を持つ、そういった意味では非常に有効な場面かなというふうに思いますが、今後、スペインのチームが来年も再来年も来るかどうかということすらまだわからない状況であります。しかも、地域とオリンピック選手との交流をという事柄もその中に含まれています。そういった事柄も考えながら、今後はまた考えていきたいというふうに思っています。以上でございます。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） 事前合宿は、それならば事前合宿は何のためにやりたいと思ったんでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） 事前合宿は、2020年のまた来るときがありますけども、そのときのためにこの辺の地域はどうなんだろう、そういったことも知るといことも一つだろうし、会場のぐあいはどうなんだろうかということも一つだろうし、いろいろこちらへ来たときにどういうことを気をつけていなくてはいけなやかとか、準備は何か必要か、そういったことを知る意味でも今回の合宿というのはやはり必要だったのかなというふうに思います。以上でございます。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） 湖西市は2017年、2020年をスペインの卓球チームの事前合宿先に誘致して、少しの間でも国際交流、スポーツの増進を図るといことをやっていくということで理解いたしました。

では4番目行きます。

行政、体育協会、企業、市民が連携して準備をする組織をつくり、まち全体でおもてなしをする仕組みをつくってはどうかと思います。いかがでしょう

か。

○議長（二橋益良） 教育次長。

○教育次長（落合 進） 今後、事前合宿を受け入れる場合には、各関係機関に御依頼を申し上げまして、合同練習等、御協力をいただきたいと思っております。市民との交流事業を計画する場合には、市内外の各種団体等との連携を図り、実施していく方向で考えております。

スペインとの日程調整の中で、希望する合宿内容により市全体で受け入れ体制が必要となれば、受け入れ組織を立ち上げることも視野に入れております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） ただいまの御答弁で確認したいんですけども、スペイン側さんがやはりこういうように私が言っているような組織をつくってまち全体でおもてなしをすることを望まれなければ、それはできないという解釈でよろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） 教育次長。

○教育次長（落合 進） 今回多分、議員が言われているのは、受け入れが教育委員会の一部署だけだったそれでいいのかという質問だと思いますけれども、今回、先ほどの教育長の答弁にもありましたように、言うてはいけませんけど、急に決まって急に来たということもございまして、十分な受け入れ体制が整えなかったというのは本当に正直反省する部分でございます。

今後2020年に向かって、十分に受け入れる体制を整備して、気持ちよく受け入れをしたいなというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） わかりました。私たちも8月に県の議員研修がありまして、やはりこれからのラグビーの大会とか、東京オリンピックに向けて、やはりそういうもので地域活性化を目指していきましょうというような、そういうお話がありました。

そのときに講師さんが、オーストリアの1万1,000人ぐらいの小さなまちなんだけれども、世界に自慢できるスポーツの大会の話をされて、私はその話を聞いたときに、多くの人の知恵をかりて、多



くの人の手助けがあれば、どんなものでも達成していけるんだよ、本当にまち全体でおもてなしをする、そういうどんなおもてなしがいいのかを考えることが地域活性化のポイントになるんだよというようにお話を伺ってきました。

ですので、今回の事前合宿を見たときに、なぜ、私ももっと早くこのお話を聞いていればそういうお話もしたかと思いますが、もっとこういうことをして気持ちよくお迎えができればよかったのかなという気持ちでこの質問をさせていただいたわけです。でも一応次長の説明でわかりましたので、またそのときにはぜひ早目早目に対応をよろしく願いいたします。

では次の5番目に行きます。

市長は観光にもつなげたいというお考えですが、その戦略を伺います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今の竹内議員の御質問にお答えする前に、今の教育委員会というか、さまざまな質問と答弁ありましたけど、本当に私も今回のスペインの卓球チームを受け入れるという経験をしたのと、実際に過去の湖西市が、例えばそういった国際交流というか、ナショナルチームみたいなのを受け入れる経験というのはあったかどうかというのは聞きましたけど、なかなかそういったところまで今まで経験したことがないと。当然平成15年の国体の卓球とか国内のものはあったわけですし、過去に新居町のほうでジェラトンとか、そういう交流自体はやっていらっしゃるというのは聞いてましたけれども、こういったナショナルチームとしての受け入れというのは全く初めての経験ですし、なかなかそういった手探りの中で、本当にスポーツ文化課のほうで夏休みも返上して、その前からですけども、やっていただいたというふうに思っています。

これが全くの初めての経験ですし、2020年が実際にその東京オリンピック・パラリンピックの本番ですので、その事前合宿には当然今そこが覚書の締結したところですので、今、教育次長からもありましたけれども、そこに向けてはしっかりと準備はす

べきだと、整えていきたい。今回の、余りこういったプレ合宿というのはほかの自治体で余り聞いていないもんですから、実はほかの自治体が逆にここに湖西に、ほかのいろんな団体が自治体の方々が必要なことをやってるかというのを視察とか見学に来られてましたので、逆にそういったものを今度はほかの自治体で受け入れがされていくでしょうから、そういったところのいいところとかをしっかりと取り入れて、来年なのか再来年なのか、実際の2020年に向けてはやっていきたいというふうに考えております。

あともう一つ補足するとすれば、ホストタウンに関しては、最初僕も聞いて、特別交付税半額もらえるんで、それはちゃんともらいましょうという方向で担当とも調整してましたけれども、実際にはやはり特別交付税ももらうためにはいろんな、先ほど教育委員会から申し上げた条件もあるし、逆に職員の、特別交付税を半額、さっきの500万の250万だったら、それをもらって申請して受領して手続をしてとか交流をしてというような手間とか、金銭面での費用対効果を考えると、市単で、単独事業としてやったほうが受け入れもスムーズだし、事業としてもスムーズに行くということであれば、それは費用対効果の観点からも市の職員の負担の観点からも、今回のホストタウンでということではなくて、市のまず単独事業としてやると。ホストタウンでこの前牧之原かな、も報道はされましたけれども、正直言ったらそれ以上に今回の覚書の締結とかで新聞の方々もそうですし、テレビでも報道いただいて、この前キューバ大使が来られたときには、湖西市はこの前のスペインの件で名前はよく知ってるよというふうにキューバ大使からもおっしゃっていただけたので、そういったPR効果というのは市の単独事業であっても、あったんじゃないかなというふうに現時点では考えております。もちろん、今後の継続の中で、ホストタウンのほうがということもあれば見直しは考えますけれども、現時点ではそういった認識を持っております。

それで済みません、今の御質問につきましての観光ですけども、やはり今申し上げたこととも関連しますが、スペインの卓球チームの選手ですとか関

係者、今回湖西に来訪いただきまして、報道等々も毎日のようにやはりしていただきましたので、そういったものを通じてやはり湖西市を国内外にPRできるすばらしい機会ということで、知名度の向上にもつながっているというふうに思っています。やはりこういった海外からの方々を受け入れて交流したという経験ですね、今議員おっしゃった2019年にはラグビーのワールドカップもあります。蛇足かもしれませんが、この湖西市役所の職員の息子さんも今トップリーガーで、ヤマハ発動機のほうでトップリーガーとして頑張ってくださいますので、そういったものも含めて、ラグビーのワールドカップに向けても、湖西市としても、静岡県内、エコパで開催が決まっていますけれども、エコパのほかにお隣の愛知県の豊田市の豊田スタジアムでも開催が決まっていますので、その真ん中に位置するというのもいろんな会合で話題になりますので、そういったインバウンドの観光振興につなげていく。そういった機会を捉まえて、もちろん2020年のオリンピックもそうですけれども、いろんな機会を捉まえて、インバウンド、観光振興につなげていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） 丁寧な御答弁ありがとうございました。本当に今回は新聞社さんのおかげで市民の皆さんにも手にとるように事前合宿のことが伝わり、本当に感謝しています。アスモの女子卓球部の皆様にも本当にスイカ割りの体験をさせていただいたり、アスモさんには工場見学もさせていただいたりとかして、本当に皆様のおかげだと思っております。修学舎の高校生の皆さんも本当によく練習に、練習相手というか、練習に参加していただけたこと、本当に光栄に思っています。

これを機会に、湖西市が卓球のまちとして飛躍できるようにお願いして、次の質問に移ります。

2番目の質問で、競艇事業収入について質問をいたします。

質問をしようとする背景は、浜名湖競艇企業団はボートレース浜名湖を運営管理する浜松市と湖西市の一部事務組合です。船舶関係や海事に関する事業

の振興や発展だけでなく、観光に関する事業及び体育事業そのほかの公益の増進を目的とする事業の振興に努めています。ボートレース事業からの収益金を拠出し、地方財政の寄与や社会福祉の増進にも努めている特別地方公共団体です。

さて、一般会計に競艇事業収入が毎年入ってきます。このお金が何に使われているかは市民には見えません。福島県玉川村では、ボートピア玉川の売り上げの一部が村事業に使われていることを広報紙で知らせています。ボートピア玉川における売上金の1%が環境整備協力費として入っており、それは教育の充実や村内の環境整備に活用されていると広報されています。

質問の目的ですが、湖西市に所在する施設であるボートレース浜名湖をもっと市民に知っていただき、その競艇事業収入について見える化をしていきたいと思えます。

質問1、競艇事業収入、配分金の使途について、企業団との取り決めはあったのか、競艇事業収入はどのように使われているかを伺います。お願いいたします。

○議長（二橋益良） 総務部長。

○総務部長（森 宣雄） お答えをいたします。

浜名湖競艇企業団からいただける配分金は、一般財源として本市の財政運営にとって大変貴重な財源の一つであると認識しております。

企業団と市との間に配分金の使途についての取り決めはございませんが、企業団の規約には、目的として社会福祉の増進、医療の普及、教育文化の発展、スポーツの振興、その他住民の福祉の増進を図ることとなっております。

したがって、その目的に沿う形で使用させていただいており、主に教育費、土木費、消防費に充当させていただいております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） ありがとうございました。特に企業団との取り決めはないということで、事業収入は一般財源の中に入り、教育や土木費等の使われているということです。

このボートピア玉川のほうは、教育の充実や村内

の環境整備に使われているというふうに、小さなエリアなんですけれども、写真も載せられて子供たちが玉川クックの森園外保育をしている様子とか、そういうのが実際こういうふうにご収益金でやるよというのが広報されてるもんですから、私は全部とは言いませんけれども、配分金の2分の1は子供たち、教育とかそういうものに使われていますよというふうにお知らせしていただくと、市民にわかりやすくなると思いますので、こんなふうにしていただけたらなと思っております。

ちょっと2番目のほうに行っていていいですか。2番目の質問をします。

ふるさと納税と同様に競艇事業収入は貴重な財源です。当市においても広報こさいで知らせていく考えはありませんか。

○議長（二橋益良） 総務部長。

○総務部長（森 宣雄） お答えをいたします。

本年10月15日、来月でございますけれども、発行の広報こさい11月号に、平成28年度市の決算状況を掲載する予定となっておりますので、その中で競艇事業収入の用途について、市民の皆様にもお知らせしていきたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） ありがとうございます。また総務部長さんのところに玉川の広報紙を持っていきます。コピーしたものをいただいたのでお見せしますが、玉川のほうでは5年間の売り上げとそういう環境整備協力費でいただいたものが数字でちゃんとわかるように書かれてて、子供たちがこうやっていますよというふうなお知らせをしてるので、私としては、できることなら平成27年度の配分金も3億100万入りましたね。やはりそういうふうに数字でちゃんと見えるように報告してもらいたいと思います。できれば、さっき私が1番目で言ってしまったんですけれども、これから配分金の用途の使い方、例えば2分の1は子供たちのものに使っていくよとか、環境整備に使っていくよとかというふうに、何か見えるようにしていただけるといいのかなと思うんですけれども、またそこも検討していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（二橋益良） 総務部長。

○総務部長（森 宣雄） お答えをいたします。

競艇企業団からの配分金につきましては、今この場所で何にという形では申し上げられませんけれども、今後、30年度の予算編成が来月あたりから順次進んでいくと思いますので、その中で内容をよく検討した中で配分先をどうしようかということも含めて、30年度の予算の一つの課題とさせていただきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） よろしくお祈りいたします。

では3番目行きます。最後の質問です。

湖西市にとって貴重な財源をもたらすモーターボート事業に、湖西市として今後どのようにかわりを持っていくのかをお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。答弁をお願いします。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

モーターボート事業、今議員からも御指摘ありましたが、公営競技という観点で捉えますと、かつてはやはりギャンブルですね、そういったイメージもあったかと思いますが、やはりそういったイメージをかなり脱却して、大衆のレジャーというような場といえますか、地域にとってももちろん大きな雇用の場として大変貴重であり重要な場だと認識をしておりますし、私自身の経験からしても、高校生のころ、東海道線で通学していると新居の駅からは本当の競艇帰りの、どちらかといえば高齢者の方々がどっと乗ってくるイメージだったのが、今は全然そんなことがなくて、本当にサンホールとかにイベントに行っても、若い方々とかお子さん連れの方とか、女性の方がすごく多く来場されてるというような、全然もう僕自身も昔のイメージとは全然違うなというのを実感しているところであります。

ですので、この公営競技といえますか、ボートレース事業に関してですけれども、この企業団というのが一部事務組合、団体の定義でいうと一部事務組合の公共団体ですので、本来、自主性、自立性のもとでやっていただくということではありますけれども、やはり先ほど来質問にもあったとおり、この売り上げとかそういったものは湖西市の財政にも大き

く影響をというか、ありがたく配当、配分をいただいているという実態もあります。また、湖西市で行う各種のイベントでありますとか式典等々の会場として、先ほど申し上げたサンホールでありますとか、駐車場もお貸しいただくとか、そういった行政としてもやはりこの湖西市の活動に関して大変御協力をいただいているところでありますので、やはり湖西市は企業団の、競艇企業団の構成団体でもありますので、今までどおりというか、これからもボートレース浜名湖としての主催されるイベントだとかレース、こういったものの集客だとかPRにはしっかりと努めていきたいというふうに思ってますし、逆に湖西市が行っているふるさと納税ですね、ふるさと納税の返礼品といいますか、お礼の品もタイアップして、ボートレース浜名湖さんからも御提供をいただいておりますので、そういった最大限の協力といいますか、連携はしっかりと行っていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

今、質問中ではございますが、ちょっと声が方々に聞こえてますので、お静かに願いたいと思います。

では質問続けてください。

○10番（竹内祐子） 御答弁ありがとうございます。本当に今、人口減少の中で財政困難、ずっと今回の一般質問の中でも結構財源が必要な一般質問が多く出されている中で、競艇事業収入というのはありがたい税外収入で入ってきていますので、このところ結構競艇さんも頑張っていたいただいて、平成28年度の決算もこの間終わりましたけれども、また3億以上のものをいただけるようになってますので、やはり湖西市にある施設でもありますので、やはりなるべく連携できて、よくなっていただいで、私たちのところにもお金を持ってきていただけるように、やはり取り組んでいただきたいなと思います。

以上をもちまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、10番 竹内祐子さんの一般質問を終わります。

それではここでお昼の休憩といたしたいと思います。

す。再開は午後1時といたします。

午前11時55分 休憩

午後1時00分 再開

○議長（二橋益良） それでは休憩を解いて、午前引き続き会議を再開いたしたいと思います。

一般質問の続きでございます。それでは、1番 福永桂子さんの発言を許します。福永桂子さん。

〔1番 福永桂子登壇〕

○1番（福永桂子） 1番 福永桂子でございます。

今回は、2單元、質問させていただきます。1つ目は防犯灯のLED化事業について、2つ目は公共施設再配置計画と教育施設地域拠点構想についてです。

では通告に従いまして、まず單元1の防犯灯のLED化事業について伺います。

質問しようとする背景や経緯です。平成28年6月定例会において、「湖西市環境基本計画には省エネルギー対策事業としてLED電球などの省エネ機器の普及促進が挙げられています。電気料金の高騰が続き、景気回復による電力需要が増加する中で、早急に省エネ、省電力への取り組みを行うことは、さまざまな観点から有益ではないでしょうか」との考えのもと、私は環境省のLED照明導入促進事業を踏まえて、防犯灯のLED化事業について質問いたしました。危機管理監からは「地域の方から毎年要望が上がっております。必要性は十分確認しております」との答弁がありました。その後、この事業について、どのように検討をされているのでしょうか。

防犯灯LED化はいまだに根強い住民からの要望です。消費エネルギーの削減、とりわけ消費電力の削減への継続的な取り組みによる電気料のコスト削減やCO<sub>2</sub>排出量削減においては、市内全域の防犯灯へのLED照明導入は大変取り組みやすく、即効性のある施策と考えます。このLED化が実現すれば、一括発注することによるスケールメリットが得られること、電気料金や維持管理費の負担が軽減されるなど、市の財政にもうれしい施策であります。加えて、地域住民の要望に応えることができ、CO<sub>2</sub>排出量の削減による地球温暖化防止対策にも貢献

することができます。

質問の目的です。市内全域の防犯灯にLED照明を導入して、無駄な電力消費を抑え、コストを削減することに早急に着手する必要があると考えます。

では質問1つ目です。防犯灯のLED化事業について、これまでの実績について教えてください。

○議長（二橋益良） 危機管理監。登壇してお願いします。

〔危機管理監 青島一郎登壇〕

○危機管理監（青島一郎） それではお答えをいたします。

8月末時点で、市内の防犯灯の数は4,815灯でございます。うち、676灯がLEDの防犯灯となっております。率にいたしますと、全体の14%でございます。

なお、新設につきましては、毎年要望の約50%を新設しておりまして、修繕につきましては御要望の100%全てを修繕をいたしておる状況でございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） ありがとうございます。去年の6月の定例会にも言わせていただいたことなんですけれども、単純計算すると、残りの防犯灯全てをLED照明にするためには、約40年かかることとなります。こんなに長期化する事業で、1つの事業が、それでよいのかなという。本当に大きな大きな疑問がいまだに残ります。

ちょっと質問ですけれども、防犯灯データの整備は今行われているのでしょうか。台帳というものに沿ってされているのかどうかというお伺いです。

○議長（二橋益良） 危機管理監。

○危機管理監（青島一郎） 現在、防犯灯全てを網羅した台帳はございません。修繕、それから新設等をするたびにこちらのほうで蓄積をしているという状況でございます。あとは電気代をこちらでお支払いをしておりますので、そういった点では防犯灯がどこにあるというのはわかっておりますけれども、中には電気料をまだまだこちらのほうに登録がされていないものも実は現実にはありますので、全てを網羅はできていないのが現実でございます。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） この維持管理面なんですけども、電気料を支払っている限り、やはりきちっとしたしっかりした台帳が要るのではないかなと私は思います。

表鷺津自治会のほうにも、これについてお聞きしたときには、自分たちで防犯灯のそのデータをつくっているんですというようなことをおっしゃっていましたので、これはどうなっているのかなという疑問があったわけです。

では、2問目に行きます。

現存する全ての防犯灯がLED化されれば、電気料とCO<sub>2</sub>はどの程度削減されるか、具体的な数値を教えていただいた上で、今後の事業計画についてお聞かせください。

○議長（二橋益良） 危機管理監。

○危機管理監（青島一郎） 平成28年度の防犯灯の電気料は約1,330万円で、市内全ての防犯灯がLED化された場合には、7月末現在の電気料金で計算をいたしますと、年間で約610万円削減となります。

CO<sub>2</sub>につきましては、現在、年間約141トン排出していると推定され、約72トン、約半分ですが、72トンの削減ができるものと考えております。

議員御指摘のとおり、省エネへの取り組みが求められ、防犯灯を一気にLED化したときの電気料やCO<sub>2</sub>の削減に大きな効果が期待できると考えております。

しかし、照明器具が高価なため、財政的に大きな負担となり、予算上の問題から省エネや節電がなかなか進まない状況となっているのが現実でございます。こうした事態を打開し、早期にLED防犯灯の設置を可能とする手法を検討しておりまして、一気にLED化を進めることを現在考えております。早ければ平成30年度中には着手をしまいたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） それは本当に大変うれしいお答えだったわけなんですけれども、この場でどのような手法でLED化されるおつもりか、既に調べていらっしゃる、検討していらっしゃるものがあれば教え

ていただきたいんですけど。

○議長（二橋益良） 危機管理監。

○危機管理監（青島一郎） 議員もよく御存じだとは思いますが、先ほど御質問の中でもありましたが、補助金の制度が国にございまして、リース方式を選択して補助金をいただくという方法があります。

もう一つは、ESCO事業というんですが、これはエネルギー・サービス・カンパニーということで、一気に器具を交換する費用がかかるわけですが、当初にかかるわけですが、それによって電気代が浮きます。その浮いたお金をその事業者に年限を決めまして、ならしてお支払いしていくというような手法がございまして、今その二つを検討しております。どちらを選択するのが湖西市にとって、将来にわたって有利になるのかということの検討を現在しております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） ありがとうございます。もし、今もまだ考えていないとおっしゃってましたら、私、今さっきおっしゃってましたESCO事業のことを少しお話ししたいなと思っていたところなので、大変うれしいです。

このESCO事業が初期投資がかからない仕組みだというのが本当に大きいと思うんですね。民間のノウハウを本当に生かすことができるということ。財源に苦労している市にとっては、大変大きなメリットがある事業だと思います。平成30年度中にやりたいとおっしゃってるそのスピード感をなくさずに、ぜひよろしく願いいたします。

では3問目、項目3に。これはちょっと今答弁をしていただいたので簡略していただいても結構です。

市内全域の防犯灯のLED化については、毎年自治会から新設や修繕として要望が提出されています。LED化の整備に伴う消費エネルギーの削減及び電気料のコスト削減、CO<sub>2</sub>削減効果などは市民生活に大きな恩恵をもたらすものでありながら、市の防犯灯LED化への早急な対応ができていないことについて、どのように考えておられるか、お聞かせください。

○議長（二橋益良） 危機管理監。

○危機管理監（青島一郎） 先ほどの答弁と少しダブるかもしれませんが、LED化しますと電球の寿命が延び、電気料金が削減できるということは、メリットについては重々今までも承知をしておりました。

ただ、初期投資や経費を考えると、なかなか防犯灯のLED化が進まなかったということが今まででございました。

御質問もいただいていたわけですが、検討をずっと重ねてまいりまして、そんな中で財政負担を軽減することを考えながら、一斉に交換できる方法、これをいろいろ検討した中で、先ほども申し上げたようにリース方式と、それからESCO事業方式、この今2つに絞りまして、検討をしているという状況でございます。

LEDの防犯灯の有効性も認知をされてきておりますので、そういった早期のLED化を進めまして、住民の皆様にとって明るい町並みといいますか、明るくなるように安全・安心な生活環境を維持できますように努力してまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） わかりました。私は本当にうれしく思います。去年の6月の定例会では、必要と思っても財源は回せないなどの答弁だったんですね。そしてLED化は結果的に既存の事業をやり続けることになったんです。この見解の違いに私は本当にがっかりしたんですね。というのも私もすごく調べたからです、この防犯灯について。できないということはとても易しいと思うんですね。けれども市民のために必要な事業ならば、財源をつくり出してその事業をやるようにするのが行政ではないかと私は思っておりますので、その粘り強く努力する姿勢とか心意気が大事だと思います。積極的に取り組んでくださることを本当に大変うれしく思います。これで、私のこの第1単元の質問は終わります。

○議長（二橋益良） では、主題の2のほうですね。

○1番（福永桂子） それでは単元2の質問もさせていただきます。公共施設再配置計画と教育施設地

域拠点構想についてです。

質問しようとする背景や経緯。総務省の方針で策定された湖西市公共施設総合管理計画の推計では、平成27年度以降、今後40年間で必要な公共建築物の更新費用の総額が992.6億円と予想され、一方では平成22年度から26年度までに市が投資した公共施設整備の実績額の年平均は14.5億円であり、40年間投資額を確保すると仮定すれば、412.6億円、年平均で10.3億円不足となっています。これは全体の仮定の話ではありますが、平成29年度に策定に取り組む湖西市公共施設再配置個別計画で厳密に検討すべき問題です。

初めから20%縮減ありきで考えるのではなく、各施設を具体的にどうしていくのか、個別施設ごとの方向性を丁寧に検討する必要があり、検討過程も含めて議会に情報提供しながら進めるべきと考えます。

教育施設地域拠点構想案では、現在の状況の中に、「教育施設の老朽化が目立ちます」、「教育施設の環境整備が追いついていません」、「教育施設によって規模の違いが大きくなっています」とあり、これが湖西市公共施設再配置基本計画の再配置方針のイメージである統合・複合化と符合していると考えられます。これまでの総論では、方向性に関して住民からの異論は出にくいものであったと思いますが、公共施設再配置計画は個別計画となるので、総論賛成、各論反対という流れになりやすいと思われます。

この再配置計画は、住民サービスに極めて影響を及ぼします。それゆえ、住民理解も必要であり、未来に輝く湖西市のために、行政、議会、住民の合意に基づく合理的なものでなくてはなりません。

質問の目的です。湖西市公共施設再配置基本計画の計画に沿って、湖西市の将来を見据えた個別施設ごとの今後の方向性を検討し、公共施設の適正配置を進められると考えます。これからの個別施設の計画策定過程に議会の意見も反映させていただきたいと考えます。議員としてもその責任において住民理解を求める活動を行っていく必要があると思います。そのために、現時点での市側の考えや姿勢をお聞きいたします。

それでは質問事項1です。公共施設の総延べ床面

積を全体で20%縮減するという目標値を設定していますが、例外なしに全ての個別施設ごとの計画に適用するべきではないと考えます。これについて、どのように考え、計画を進展させていくのか、お聞かせください。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 平成29年3月策定の公共施設再配置基本計画では、総量20%の総床面積縮減を目標としております。例外なしに全ての施設に適用しようと考えているわけではございません。この基本計画では、既存の建物の今後の方向性を決めるために、それぞれ施設評価を行い、複合化・廃止等の方針を示してございます。再配置の推進におきましては、既に公共施設再配置基本計画説明会を開催したところでございますが、引き続き市民の皆様の御意見を伺いながら、平成30年3月にはそれぞれの施設の方向性を具体的に示す公共施設再配置個別計画を策定してまいりたいというふうに考えております。以上であります。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） そのように配慮を行い、そしてきめ細やかに住民説明も行ってくださることを期待しております。

この個別計画を厳密に検討していくというそのものは、必要ない工事は極力控えたり、建てかえではなくて長寿命化で対応するなど、個々の施設を丁寧に検討すべきだと思うわけなんですけども、そこで重要なのは、今少しおっしゃってましたけれども、施設の性格とか利用状況とか、住民の理解度などを総合的に判断して決めるべきことだかなと思います。

例えば、市役所は廃止・集約化・統廃合というけれども、地域住民の思いはそれとは全く異なって、これからも大切にその施設を使いたい、未来の子供たちのためにも残しておきたい、なくなれば地域がさびれてしまうじゃないかという、そのような施設がどうしてもこれから湖西市内に出てくるのではないかと想定されるんですね。このギャップといいいますか、このようなことに直面されたとき、どのような基準で判断を下していられるのでしょうか。お聞きしたいです。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 先ほど来から御説明をさせていただいております公共施設再配置基本計画の中で、こちらについては今の議員の御指摘についてはお示しをさせていただいております。また、かねて5回各会場で御説明会をさせていただきました。その折にもそれぞれの施設ごと、公共施設、その他の施設、いろいろな施設ごとの目的、配置、方針についてをお示しするとともに御説明をさせていただいておりますので、その辺につきましては丁寧に御説明をしておりますし、今後ともそういったことに意を配しまして御説明をさせていただいて、御理解をいただきながら、30年3月までには個別の計画をまとめていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 個々の施設を丁寧に検討していただきたいなと思っております。その結果、施設によっては削減できない、縮減できない施設があってもよいのではないかなと私は思います。

では質問の2項に入ります。

公共施設の20%縮減を目指すだけでなく、行政事務の見直しなども含めて全体で検討すべきことだと考えますが、これについての見解をお聞かせください。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 公共施設の削減は、将来の財政運営を見据え、一つ的手段として行うものでございます。20%削減については着実に取り組んでまいりたいと考えております。また、議員が御指摘のとおり行政事務全体の見直しについても必要であると考えるところでございます。

本年5月31日には全庁的に部課長を対象に、平成30年度予算編成に向けての説明会を行いました。各部に事業見直しの指示をいたしたところでございます。さらに8月末には、平成30年度以降にスクラップや見直しができる事業について、副市長ヒアリングを行い、行政事務全体の見直しを進めているところであります。以上であります。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 全体での検討、よろしく願いいたします。投資できないからといって、その負担を公共施設の縮減という住民負担のみに押しつけるのではなくて、やはりしっかりと業務全体を精査していただいて、そして市役所も責任を負っていかなければならないと思うんですね。今のこの市役所職員の頑張りがやはり明るい未来を、湖西市の明るい未来を築いていくんだと、そう思いますので、大きな責任をこの市役所も背負っているわけですね。努力をしてくださる姿勢を大変うれしく思います。それでは次参ります。

○議長（二橋益良） それでは項目3に移ってください。

○1番（福永桂子） 縮減に向けては周辺自治体との連携も視野に入れるべきだと考えます。そのような検討は進めておられるのでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 公共施設マネジメント基本方針4で、広域的な活用にあります、行政区域に捉われない広域的な観点での公共施設の効率的な活用を図るべく、検討を進めております。

地域の皆様への御理解を得ていく中で、周辺自治体との広域連携についての具体的な協議も今後必要になるものと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 今おっしゃったように、本当に紙面上というか、紙面上だけでなく、やはり具体的な協議を通してさまざまな可能性を検討してもらいたいんですね。効率的で効果的な行財政改革になるように努めてほしいなと思います。

それでは次の質問に入ります。

○議長（二橋益良） 項目4ですね。

○1番（福永桂子） 既存の公共施設の集約化・複合化を実施するに当たって、国の支援制度の活用も考えておられますか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 事業推進におきましては、国等の補助制度を活用し、財源の確保を図ってまいりたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。



○1番(福永桂子) そう考えておられるだけで、今のところはそういう支援補助金をどのように組み合わせようとか、そんなところまでは行っていないということですね。

○議長(二橋益良) 企画部長。

○企画部長(松本裕行) 今は個別計画の策定という主眼の中でお答えをさせていただきました。個別のそれぞれの施設については、それぞれの所管施設の中での集約・統廃合・整備・長寿命化、その中でどういった補助が適切かどうか。それについてはそれぞれの中で詳細に詰めながら、最大限の財源確保を図っていくという意味で御説明をさせていただきました。以上です。

○議長(二橋益良) 福永桂子さん。

○1番(福永桂子) 本当にそういうふうで、ではよろしく願いいたします。20%の縮減は皆さん理解できると思うんですけども、必要な財政原資を捻出するということが大切なことだと思うんですね。そういうことによって20%縮減しなくてはならないという額を、もう少しでも下げる工夫をしていただけたらと思います。

再質問になるかもしれないんですけども、工夫の選択肢の中に民間活用というものがあるんですけども、今後、膨大な公共施設維持になってくるわけなんですけども、その従来型の入札のほかには大幅に民間の知恵とかノウハウを生かせる契約も検討してはどうかと思うんですけども、これについて何かお考えになってることはございますでしょうか。

○議長(二橋益良) 企画部長。

○企画部長(松本裕行) 先ほどのお答えにダブリますが、そういったことも含めまして、最大限の財源確保を図ってまいりたいというふうに考えております。ありがとうございます。以上です。

○議長(二橋益良) 福永桂子さん。

○1番(福永桂子) 支援補助金などはそのときにしか出ないものもありますので、よく目を見張らせて、そしてスピードアップでお願いしたいなと思います。

提案型プロポーザルであるなり、複数の施設を一括で更新するようなり、職員の方々既におわりの

ことかとも思います。施設再配置を全体を一括で民間活用する方法もありますね。東北の震災復興などで使われているCM方式というものですけども、メリットもデメリットもそういうものにはあるようですので、何が有効な手段かの判断が必要だと思います。よく研究していただいて、やっていただきたいなと思います。

それでは次の質問に入ります。

○議長(二橋益良) 項目5ですね。

○1番(福永桂子) 湖西市公共施設再配置の個別施設の計画策定では、丁寧な検討過程の情報公開が必要だと考えます。どのように情報公開を行うのか、その方法について御説明ください。

○議長(二橋益良) 企画部長。

○企画部長(松本裕行) それでは一つの方法でございますが、7月11日から8月10日にかけて、市内5つの中学校区ごとに、公共施設再配置計画の地域説明会を開催いたしました。この中でさまざまな御意見・御要望をいただきました。特に北部地区におきましては、学校施設の複合化などはもう少し詳しく説明してほしいとの要望がございました。教育委員会事務局にその旨を連絡しているところでございます。

このように地域等からの御要望があれば、積極的に御説明及び意見交換を行ってまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長(二橋益良) 福永桂子さん。

○1番(福永桂子) 地域への出向いての説明会、大変いいことと思います。よろしく願いします。

行政とコンサルタントだけで一方的に策定していく、そんなことはされないとはいえますけども、そういうことはやはりそのような手法は危険なわけなんですけども、計画策定過程に議員の、議会の意見も反映させてほしいと思うんですね。そこでちょっともう一度お尋ねしますけども、情報公開を議員に限って言うと、どのような方向で議員に知らせていただけますか。

○議長(二橋益良) 企画部長。

○企画部長(松本裕行) 一つの例で申しますと、ただいまの7月11日から8月10日にかけては、

議員の全員協議会という特別の場所で、議員の皆様には特別にこういう機会があるよということを丁寧に説明をさせていただいたところ、こういったことが情報公開だと確認しておりますし、またこの5つの中学校区の説明会につきましては、ウェブサイトのほうで記録等も既に公開しております。そういったところを御確認いただけるということも、議員の皆様を初め、市民の皆様にも情報公開のことを常に考えて進んでいるということを御理解をいただきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） それでは、その計画策定の客観性を担保するということで、外部有識者を入れた審議会か検討会、もう今は置かれていますけれども、もう一つそこに議員が参加する、そういうふうな検討会、審議会は、つくられることはできるのでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 行財政改革のほうでの審議会という部分の一つとして、この公共施設再配置計画という部分では外部だったりの御意見だったり、審議をしていただく。議会のほうにおかれましては、私のほうから話をすべきではございませんが、議会のほうの進めのルールがあったと認識しております。その中で御協議をいただければというふうに思っています。以上であります。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 個別計画策定では本当に住民の理解が必要だと思います。なので、議員としても市民説明が必要などときにはしっかりと協力していきたいという、そういう思いで言っているわけなんです。なので、市からクリアでオープンな情報を、本当に旬の情報を素早く届けていただきたいなというそういう思いです。

それでは次行きます。

○議長（二橋益良） 6番目ですね。

○1番（福永桂子） 再配置計画は、画一的に取り扱うのではなく、湖西市の各地域の地域性を考慮し、その地域に合った再配置計画が必要だと思います。各地域の個性の尊重について、どのようにお考えに

なりますか。

また、公共施設整備事業状況の把握において、5つの中学校区別に整備されていますが、今後のまちづくりを5つのエリアに分けて進めるという理解でよいのか、お聞かせください。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 再配置計画は、市内全体を俯瞰しつつ、湖西市の各地域の地域性、各地域の個性等を尊重した計画が必要だと考えております。平成28年度の公共施設再配置基本計画の策定におきましては、地域の実情やバランスなどの視点による評価を実施し、各施設の方針を選定しております。

平成29年度の公共施設再配置個別計画の策定におきましては、施設所管課と地元との話し合いの状況や、地域説明会での意見交換の内容を踏まえて、各施設の行動計画に反映してまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 5つのエリアに分けて進めるということの理解でよろしいんですね。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） そのとおりでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） コンパクトシティの考え方で、湖西市に一つの拠点だけ置くまちづくりは、私はどうかなと思っていますので、この5つのエリアに分けて個性を尊重して進めていくことは、まちの発展につながるのだなと個人的に思います。

そこでお尋ねしたいんですけども、5つのエリアに必要な住民サービス機能を置いてほしいと思うわけなんです。市役所としての窓口機能を設けることですが、そのようなお考えはイメージ的にはおありでしょうか。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 主題が公共施設再配置計画という中でのお答えをさせていただきたいと思いますが、その中で先ほどの御質問の中で5つのエリアに分けて進めるという理解でよろしいかという部分におきまして、5つのエリアでよろしいというふ

うにお答えをさせていただきました。

その後におきましては、ごめんなさい、もう一度質問をお願いいたします。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 5つにエリアで進めていったとしますと、それぞれの各エリアに必要な住民サービスの機能を置いてほしいなと思うわけなんです。それは市役所としての窓口機能を設けることですが、そのような考えはありなんですかという質問です。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） お答えに詰まるわけですが、公共施設再配置計画と教育施設の拠点施設整備以降、その中での御答弁としますとなかなか答えづらい部分がございます、私のほうからは、総量20%に相当する部分についての削減を、総論賛成、各論反対の中ではなくて、それぞれの御理解を得るために丁寧に説明をさせていただくのがまず第一回目をさせていただきました。今後においては教育委員会のほうで御用意をいただいているようです。さらに御要望があれば、さらに御説明をし、そういった中で御意見を伺いながら、どういったものが必要かどうかということが今の福永議員のお答えになればと思います。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 5つのエリアに分けて進めるという以上、大きく将来どうしていくか、5つのエリアをどうするのかというような構想があってもいいかなと私は思います。

今後のまちづくりにおいて、差別化といいますか、この地区は他の地区と比べると機能が劣るんだというようにするにはならないようにお願いしたいなとそう思っております。

それでは次行きます。

○議長（二橋益良） 7番目ですね。

○1番（福永桂子） 幼・小・中学校が点在している知波田地区では、教育施設地域拠点構想案が発表されてから、保育・教育施設の集約化が進められて、小学校や幼稚園が消え、地域がますますさびれていくのではないかと心配しています。保育・教育施設

の集約化を進める際に、知波田地区の地域性に考慮して、この地区の将来をどのようにしていこうと考えておられるのか、お聞かせください。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 保育・教育施設の集約化を進める際には、地域との話し合いを重ねながら検討し、北部地域の実情や特性に配慮し、将来において地域の活性化、交流の促進が図られる公共施設の適正配置を目指してまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 私、この間、奈良県の広陵町の方と研修でお会いしたときに言われていたことなんですけど、教育の質の高さはデータでは出てきませんが、でも一般的に教育水準の高い地域の移住希望はあります。そして過去に大規模開発された住宅エリアというのがあって、その教育水準が高く、それを移住条件で来た人もあるとおっしゃってました。

このように教育施設と住宅エリアを一体化して考えること、そういうこともできるのではないかなと思います。これについてもお聞きしたかったんですけども、今回はやめておきます。またの機会にしていきたいなと思います。湖西市には本当に住宅地として利用できない土地がほとんどです。それでも少しずつ解消して、特区などもとって、このような住宅エリアと教育施設の一体化のまちづくりをして、人口増に還元していく。そういうことはできないかなというような思いです。

ちょっと教育長のほうに少しお伺いしたいんですけど、よろしいでしょうか。統廃合はそもそも公共事業削減のためにやるのか、それとも小・中学校の教育水準の観点からやるのかという2つの側面があると思うんですね。教育長はどのように考えられるのかなと思うんです。財面から、それとも教育の観点から見て、どう思われるかという、そのあたりを少し見解をお聞きしたいなと思います。

○議長（二橋益良） 教育長。

○教育長（渡辺宜宏） お答えになるかどうかわかりませんが、統廃合とかそういった事柄という

のは、まだ教育委員会としては前面には出していません。今後、どういうふうにしていこうかということ地域の方々とお話をしていこう。今、求められている教育というものについて、まずお話をしたいなど。それぞれ地域や家庭と連携をしながらやっていくというのが今の学校かな。そんなためにどんな施設がいいんだろうか。そんな事柄を意見交換をしていきたいな。それぞれの地域で本当に子供たちが夢や希望のある、希望を持って通える学校、そんな学校をつくっていききたいなというふうに今は思っております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 見解として、ありがとうございます。

では8に入ります。

教育施設地域拠点構想の推進で、小学校などの教育施設がなくなる地域にとっては、地域のにぎわい拠点がなくなることになります。その場合は既存の教育施設の利活用などを含めて、何らかの代替施設などににぎわい拠点の機能を残す工夫は考えておられるのか、お聞きいたします。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 公共施設再配置基本計画におきましては、北部地区の幼稚園、小学校、中学校の複合化を第3期に検討することとしております。また、教育施設地域拠点構想におきましても、地域住民の集会施設なども併設する集合化の学校が一番望ましいと考えております。

これらの計画は、教育委員会から地域の皆様へ説明を行い、御意見を伺いながら進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。その上で現在の教育施設の利活用等の検討がされていく、してまいる、そういったことでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 全て先のことは置いておいて、今の個別のことをやるんだというように聞こえなくもないんですけども、やはり大きく未来の湖西市をどうしていくかというビジョンの中で、こういうことは本当考えられることだと思うんですね。小・

中学校は単なる教育施設というよりも、その地域にとっては心のよりどころという意味合いがあるんですね。公共施設としてこの利活用、それが対応できなくても、民間の活力を生かして地域の拠点としての機能は存続できるのではないかと。そういうふうな努力とか、それから検討をしていただきたいと思っております。

では9に入ります。

湖西市公共施設再配置計画、教育施設地域拠点構想の推進は、市長の考えるまちづくりが人口減少を自明の前提とした縮小均衡のまちづくりであると考えてよろしいのか、お伺いいたします。

○議長（二橋益良） 企画部長。

○企画部長（松本裕行） 公共施設の再配置基本計画、教育施設地域拠点構想の推進目的は、今後予想される厳しい財政状況の中で、将来にわたる公共施設の適正配置を進めるものでございます。今ある資源・資産を最大限に有効活用し、将来的な人口規模・財政規模に見合った公共施設の再配置を進めていくものと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 市長にお聞きしてよろしいですか。将来的には人口減少を前提として、そしてその人口規模に見合ったまちづくりをしていくということが、市長の考える基本姿勢なんでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

人口減少ありきで考えたいとはもちろん思っていないですし、いろんな、今議員おっしゃった北部地域もそうですし、湖西市全体として、これは全国的な傾向として今人口減少とか少子高齢化と言われているのは事実としてありますので、そういったものを本当は前提として考えるというような全国的傾向かもしれないけれども、当然湖西市の中で人口減少を食い止めて活性化につなげていくという施策を行っていきたくし、行ってきているというふうに考えております。

やはり全体としてかつてのこの公共施設もそうですけれども、高度経済成長、いわゆる右肩上がりの所得だとかそういった経済成長という中で、今、日

本経済がなっているというのはなかなか現実的にはそうでなっていないということだと思います。低成長と申しますか、安定成長の世代に入ってからもう長いと思っておりますので、そういった前提を置きながらまちづくりをしていくということが現実的だというふうに思っています。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 少子高齢化で人口が減少するのはわかっています。それも踏まえて、人口を維持すること、そして人口をふやす政策を具体的に打ち出してもらいたいなど、そう思っているんですね。今、そのためにこういうことを具体的にしていくなだという事業は、市長の中ではイメージとしてはお持ちになってないか。そのあたりをちょっとお聞かせ願えますか。

○議長（二橋益良） ちょっと確認をいたします。今、統廃合の整備計画の中での質問だったと思いますが、今人口ビジョンとかとそういうとこまで進んでるもんですから、ちょっと質問内容とはずれがあるという判断をいたすところでございますので、もう少し整理して質問をお願いしたいと思います。よろしいですか。福永桂子さん。

○1番（福永桂子） では最後ですけど、市長は多くの公約を掲げられて着任されたわけですけども、その中に人口減少対策をします、豊かな湖西市を目指しますと言われております。その公約を本当に実現する政策を早急に取りまとめて、まちづくりのビジョンを示していただきたいと思うんですね。このまちづくりのビジョンの中に、この再配置計画、教育の施設の統廃合、そういうものがあると思うんです。だからしっかりと示していただきたいというのが私の思いです。

では次、10問目に行きます。

再配置計画を進めていく上で、住民説明・理解に十分な配慮が必要と考えます。きめ細やかな対応が望まれますけれども、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今の質問に関してですけれども、公共施設の再配

置につきまして個別計画の実施においては、やはり先ほどの質疑答弁にもありましたとおり、各施設ごとに地域の方々への説明を継続してこれからも丁寧に行っていくと。これは各担当であったり、先ほど教育委員会からも答弁ありましたけれども、そういった丁寧に対応していくとともに、その結果につきましては先ほど議員から情報公開の御質問もありましたけれども、例えば広報こさいであったりだとか、ウェブサイトであったりだとか、各地でまたそれ以外の機会も捉まえて、積極的に情報発信は、もうさまざま今はSNS等も発達していますので、いろんな機会でも情報発信はしていきたいというふうに考えております。

また、ちなみにですけれども、やはり現実的にもこの前7月11日から8月10日、先ほど企画部長からも申しあげましたけれども、5つの中学校区ごとに公共施設の再配置につきまして、地域の説明会を開催させていただきました。その内容につきましては、湖西市のホームページ、ウェブサイトにも掲載をしておりますし、もうすぐ9月15日に広報こさいの今月号と申しますか、10月号ですか、が出ますので、そこでもしっかりと掲載をさせていただくように準備をしているところでありますので、そういった情報発信もそうですし、説明会、それ以外の機会も捉まえて、きめ細やかに対応してまいりたいというふうに考えております。

これも当然ながら先ほどの質疑にもちょっとありましたとおり、人口減少を食い止めるための地域の活性化につながることはなると申しますので、公共施設の再配置もそういったしっかり施策にマッチするように進めていきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 発言時間が3分になりましたので、まとめていただきたいと思っております。では、福永桂子さん。

○1番（福永桂子） アンケート実施も意見聴取もするとおっしゃってる市長です。私は本当に、市長はフットワークも軽いし、若くて、エネルギーが豊富だと思います。どのイベントと一緒になっても、何か挨拶だけして帰るのではなく、最後まで残ろうと、

見ていこうとされている姿勢が大変私は好きです。それから市役所に来て、課に直接出向いて行って、職員とお話しされてる姿も私は一度二度お見かけしました。そのような態度というか、大変よいことだと思います。それも踏まえて、地元のことは地元民が一番よく知ってると思うんですね。だから5つのエリアに分けるとするならば、例えば市役所主導で聞きに行く、説明するのではなくて、地元民みずからが企画して、しっかり地元で話し合いをしてまとめた、こんなまちづくりの構想やアイデアを持ってらんだよという、そういう意見は地元から、地域から要望されれば、市長はみずから出向いて行って、直接聞く機会をおつくりになる考えはおありでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

もちろん、別に市役所主導だけのまちづくりというものではないと思ってますし、もちろん主体がどこであろうと、地域の皆さんであったり、いろんな団体であったりとか、それは主体がどこであるにかかわらず、さまざまな住民の方ですとか意見は聞きながら、どの施策についてもそれはそうだと思いますけれども、進めてまいりたいというのは変わっておりませんし、この公共施設に関してもやっていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） ありがとうございます。お願いいたします。

最後に、頑張る地域の声を本当に大切にしてもらいたい。市長はしていただけるということです。そうすれば地域の住民も協力しますし、そして行政の声を聞いてくださると思います。行政と市民と議会が一体となって、この湖西市の明るい未来を築いていきましょう。これで、私の一般質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、1番 福永桂子さんの一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 次に6番 佐原佳美さんの発言を許します。佐原佳美さん。

〔6番 佐原佳美登壇〕

○6番（佐原佳美） 6番 佐原佳美でございます。通告に従いまして、1題、質問させていただきます。

主題1です。災害時の妊産婦や乳幼児、障害者等、要配慮者への支援について。

質問しようとする背景や経緯でございます。9月は防災の月。ことしも防災対策について質問及び提案をさせていただきます。

防災の月の由来となった関東大震災から94年のことしも、台風、集中豪雨などで九州北部を初め多くの地域で災害が発生し、被災された方々がありました。東日本大震災、熊本地震なども含め、犠牲になられた方、いまだ御不自由な生活を強いられている皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて、私の昨年の9月の定例会一般質問では、熊本地震の被災状況、産後鬱病の発症、発生が通常の数倍であったなどの情報から、湖西市防災会議に母子ケアのできる助産師を加える考えはないかと、女性の視点の防災対策を質問いたしました。元市長の答弁は、医師が入っているのによいと思ったが、研究するというものでした。

それから半年のことし3月17日、「災害時の母子支援連携、県助産師会、磐田市と協定」との見出しの新聞記事を発見し、助産師はいても助産師会のない湖西市でも、県助産師会と協定を結べば、市内の妊産婦や乳幼児への被災後のケアや発災前の事前対策施策に提案、協力願えるのではないかと、一筋の光を見た思いでした。県助産師会から母子ケア実戦部隊の応援を得られる協力協定を磐田市のように締結できることを期待して質問いたします。

また、2番として挙げてありますことですが、本年7月16日に新所自治会では自治会役員、町内会長、正副防災隊長などで危機管理課による出前講座のHUG、避難所運営ゲームを地域防災指導員の御指導のもと行いました。

地元の東小学校の体育館、教室、グラウンドの見取り図上に、避難してくるさまざまな方の居住スペースを割り振っていく作業や、救援物資や問い合わせに対応していくゲームですが、「盲導犬を連れて目の不自由な方が来ました」、「赤ちゃんを連れて

家族が」、「自閉症のお子さんを連れた御家族が」、「外国人が」、「車椅子の家族が」と次々に避難してくる人々を、そのゲームの読み札を読み上げられると、要配慮者とかかわりが日常的でない自治会メンバーは、どのスペースに案内したらよいかかわからず、パニックでした。

その後、避難時に個別配慮、手助けを必要とする方が配慮してほしい内容を記入して携行するヘルプカードの存在を知りました。周囲に援助や配慮を必要としていることを知らせるヘルプマーク、赤い地に白抜きプラスとハートマークがあしらわれているカードに支援内容が書かれていれば、障害の理解ができ、専門的なかわりとまではいかないまでも、どれだけお互いに助かるかと思いました。

また、埼玉県越谷市では昨年、視覚障害者、聴覚障害者向けに災害時に支援を希望する意思表示用に「目が不自由です」「耳が聞こえません」「避難に支援が必要です」「身体が不自由です」と風呂敷大の布の四隅にプリントしたバンダナを作製し、無料配布しています。ことしは、知的障害者、精神障害者に配布予定とのことでした。

当市の聴覚障害者協会関係者にお会いしたところ、自費で別のタイプのバンダナを購入して持っているとのことでした。そこには、「耳が聞こえません」と「手話ができます」のプリントがありました。

このような要配慮者への支援内容がわかり、避難所での受け入れの混乱を少しでも軽減できるヘルプカードや、支援が必要なことを伝えるバンダナなどのお助けグッズを当市でも導入したく、提案いたします。

では質問の目的です。自然災害のみならず、外国からのテロなども心配な昨今の危機管理として、防災・減災対策として事前に取り組めることは準備し、市民の命と被災後の暮らし、健康を守る施策を講じてほしいため質問いたします。

では、いいですか。質問項目行きます。

○議長（二橋益良） どうぞ。

○6番（佐原佳美） では1点目。静岡県助産師会と災害時における妊産婦や乳幼児の健康診査や巡回相談などを通じた心身のケアや、事前に災害時の支

援体制について協議して備える連携協定を結んではいかがでしょうか。よろしくお願ひします。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。登壇して願ひします。

〔健康福祉部長 山本 渉登壇〕

○健康福祉部長（山本 渉） お答えをいたします。

県内の市町におきましては、災害時の医療救護活動におけます専門職の派遣要請を、ふじのくに防災情報共有システム、システム名をFUJISANと呼んでおりますが、そちらのシステムを用いて現在行うこととなっております。

県からは静岡県助産師会と災害時における体制についての協議会を開催し、連携についての検討をしているということで伺っておりますので、市といたしましては県と県助産師会の動きを注視するとともに、あわせて静岡県助産師会と市との協定の締結について今後連絡調整をしていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん、いかがですか。

○6番（佐原佳美） ありがとうございます。ストレートにお返事をいただいたという感で、大変うれしく思います。県と県の助産師会との動きを注視しながら、今後湖西市も静岡県助産師会との調整をしていきたいという御答弁で感謝いたします。

この8月に、静岡県助産師会の草野会長や助産師会のない湖西市をありがたくもカバーしてくださると申し出ていただいた浜松市助産師会の齋藤会長、県助産師会災害対策委員会の皆様と懇談した折、南海トラフ地震などの広域災害時は県外からの応援を受けるが、県助産師会との協力協定を結んでいるところから優先的に支援するとのことがありました。

浜松市助産師会にせよ、県外からの助産師さんの支援を受けるにせよ、一人の助産師さんが活動できる日にちは3日から5日だそうです。効率よく支援を受けられるよう、乳幼児のいる家庭や妊婦さんの事前防災対策指導、発災後の支援マニュアルづくりなど、事前協議をしっかりとしておく必要があると思います。これは、ほかの協力協定締結団体ともそうしておいていただいているとは思いますが、さらに具体的な懇談も進めていただきたいと思いますものと思

っております。事前防災が本当に大事だと思っておりますので、それらを含めて県助産師会と、また直接は浜松市助産師会の皆様等と連携をとって、協定の締結に運んでいただきたいと思います。よろしくお願いたします。ありがとうございます。

○議長（二橋益良） ここで質問の途中ではありませんが、今1番終わりましたね。

○6番（佐原佳美） 終わりました。

○議長（二橋益良） あと2番からでございますけど、とりあえず休憩をとりたいと思います。

ここで休憩をとります。再開は2時15分といたします。

午後2時04分 休憩

午後2時15分 再開

○議長（二橋益良） それでは休憩を解いて会議を再開いたします。

ただいま佐原佳美さんの一般質問の項目2から進めたいと思います。佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） よろしくお願いたします。

では2番目の質問です。議長の許可をいただきまして、お手元にコピーですが資料を白黒で配付させていただいております。ちょっとそれをカラーにしたのも後ほどごらんいただきたいと思います。

まず先に、このお助けグッズの紹介をさせていただきます。ヘルプマークという一番上にありますものですが、赤い、かばんにつけるような形のものですけど、このヘルプマークというのがプラスとハート型の赤地に白抜きのものですけれども、これはバッグ等につけられる形で、東京都議会にて御自身が人工股関節を入れている自民党都議が提案されました。これはヘルプマークですね。そしてヘルプカードは、自閉症のお子さんを持つお母さんから、子供が社会参加できるようになったときに、災害や事故に遭遇しても、周囲の人が支援の手を差し伸べてくれるような東京都をつくってほしいと公明党都議の伊藤さんという品川区の方が街頭演説しているところにお母さんが手書きのヘルプカードを持ってこられて見せられました。

両方とも、最初は都議会で採用にならなかったよ

うですが、3.11を経た2012年10月、都内共通で利用されるようになり、今、全国的にも広まっているものです。

カードの内容は、資料のようにいろいろです。これはA4版を折り畳むとこのような冊子になって、これは印刷代も普通のコピーだから、コピーでできるようなものです。今のはこれです。そして千葉県ではこのような形のものをつくっています。ですので、いろいろなタイプが今、存在しています。そしていろいろなグッズがあります。それと、支援を意思表示するバンダナは、越谷市で使っているものはこのようなものです。これはちょっと資料配付してありませんが、90センチ掛ける90センチの風呂敷大のもので、災害のときに脱臼したり骨折したりしたら、三角巾として使えるとか止血に使えるという機能だそうです。そして湖西市で私が聴覚障害者の、耳の聞こえない方の団体の方とお話をしたときには、インターネットで自分たちで数百円だったそうですけれども、こういうものを今数人持ってらっしゃるということです。このように手話ができますということ、耳が聞こえませんがというのが裏返しをするとあるわけで、やはり大混雑した避難場所とか、大事故ですね、何かのね、そういうときにはやはりいち早く自分が要援護者だということを伝える手段、また手話ができる方は私があなただの支援に駆けつけられますよということ伝えられるものだそうで、軽井沢町、長野県の軽井沢町では、ことしからこれが、市販のものですけど、これを配布したという新聞記事もありました。

このような要配慮者へのもので、この書き込みができるようなヘルプカードですね。ヘルプマークというのはかばん等に下げる、妊娠初期の方とか内部障害の方、一般的には目に見えない、人工関節を先ほど言いましたようにつけてる方とか、透析患者さんとか、外見には見えない方などもやはり電車に乗ったら席を譲ってほしいとか、そういう表示になるというものです。そしてヘルプカードは通院先とか飲んでのお薬とか、そういうものを書くものです。

このような緊急時に要配慮者への理解を促して、



支援する側もされる側も助かるような、このようなグッズを湖西市として採用していくお考えはいかがかとお伺いたします。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） ただいま御紹介のありましたヘルプカードにつきましては、外見からは障害があるとわかりにくい方が、周囲に援助を求めやすくするためのツールとして非常に有効なものであると認識をしておりますが、その意義が広く地域住民に理解されることが重要でありまして、広域的な取り組みが必要であると考えております。

実は8月中旬に県から、県としてヘルプカードの導入を進めるに当たっての各市町の基本的な考え方についての照会がございました。その内容は、ヘルプカードの必要性やヘルプカード導入に当たっての県市町の役割分担などございました。ということから、今後、県の動向を見ながら、必要な対応をしていきたいというふうに考えております。

バンダナにつきましては、こちらも災害時の支援には役立つものと考えますが、まずはヘルプカードの導入について県の動向を見ながら検討していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） ありがとうございます。私はこの一般質問の通告前に、市内外の障害者団体や障害者通所事業所を訪問して、11人ほどの代表者とお電話や直接お会いしたりして懇談させていただきました。そこで、一番最初にお伺いしたところで、この全国ヘルプマーク普及ネットワークという、キャラクターはそれぞれのまちが、熊本のくまモンなんかは全国で使ってくださいという形で、皆さん使ってくださいとってインターネット上には掲げられてますけれども、この折り畳んで冊子になるようなものが安価でもあるし、それから全部自分の注意してもらいたいことを書き込むよりも、レ点でチェックしていく。例えば精神障害や自閉症の方等は大勢の方の中に混在させないでください。小さなスペースを設けて配慮してくださいというようなことなどですけれども、そういうものをチェックするような形がいいのではないかとというようなことで、皆さん

に御意見を伺った中では、使う使わないはその御家庭の判断で結構だけれども、市がそういうものをつくってくれるならば、ぜひとも賛同して利用していきたいという声が圧倒的でした。

そしてこのヘルプマーク、ヘルプカードですけれども、ことしの7月20日にヘルプカードに表記されているこの赤地にプラスとハートのマークですけれども、これが東京オリンピック・パラリンピックを前に救護所や駐車場など7種の案内図が世界的に共通するマークになるように変更したものとあわせてJ I S化されました。このマークですね。そして、それを前にことしの3月24日に参議院予算委員会で、公明党の浜田昌良参議が、心のバリアフリーを進めるためにヘルプマークとヘルプカードの普及啓発をと質問に立ち、安倍総理から大変に意義がある、積極的に広報し、その普及と理解の促進を図ってまいりたいとの答弁を引き出しました。その後押しがあり、静岡県議会9月定例会の補正予算案に、障害のある人への心づかい推進事業費新規が計上される中で、ヘルプマークをキーホルダー式で作製し、1万個配布予定と聞きました。まずは県よりのヘルプマークの周知・普及を図り、必要としている人の支援につながるように、このマークを覚えていただくということが必要かと思いますが、湖西市としてはこれをあしらったカードをつくって、要支援者に市民が活用できるように進めてほしいと思います。

私が訪問したり、お電話で伺ったところでは、1カ所浜名学園の通所のところだけが、それにかわるものとしてライフカードという地震防災用というものを利用者さんにそれぞれの御家族が記入して携行させていました。ほかの事業所は、台帳としてその人の個人情報やいろいろな医療情報はあっても、携行させているという方は、方はというか、事業所としてそういうものをつくっているところはないということで、ぜひとも活用したいということです。

そして、このJ I S化されたということは、世界的にやはりこのマークを普及していくということもありまして、もちろんJ I Sは日本工業規格という日本のものではありませんけれども、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、世界に発信していこ

うという意図でJ I S化されたということも聞いております。

ヘルプマークのほうはキーホルダー式のもので、県が、議案が通れば配布予定となると予測はされま  
すけれども、カードについて安価なものでできます。  
印刷屋へ頼まなくてもそれぞれの事業所のコピーで  
もできるものですので、そういうコピーするとすれ  
ば予算づけなりとか、そういうものをまた検討して  
いていただくというお考えはいかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） 先ほど、まずは県の  
動向を見ながら対応していきたいということで申し  
上げましたけれども、その県のほうでキーホルダー  
を作製しているという情報はちょっと私のほうまだ  
入っておりませんで、まだ具体的に実際にキーホル  
ダーをつくるのか、ヘルプカードをつくるのかどう  
か、そういった状況をまた今後確認した上で、あと  
考えなければいけないのは、逆に障害者であること  
の情報を身につけることに否定的な意見を持ってお  
られる方も中にはお見えになるかと思いますので、  
そういった当事者団体とかそういった方の意見を聞  
く機会も設けながら、あと県の動向を踏まえて対応  
していきたいとそのように考えております。以上で  
す。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） わかりました。ただ、進んで  
いくことは安倍総理も積極的に推進するということ  
を3月に言っておりまして、それでいろいろな一般  
紙等でもその後報道がされてます、ヘルプマーク、  
ヘルプカードのことがね。です。あとは県の動  
きでというね。県もどういふふうにするか、まだ模  
索中のようですので、公明党の県議も一生懸命提案  
するということを言っておりましたので、それを待  
つのもよいかとは思いますが、ただ、積極的に、い  
つ起こるかわからない災害に対して、何らかの手だ  
てを打つという意思はあるとは思いますが、こうい  
う何百円というようなものもありますので、これは  
聴覚障害者に限ったものですが、ヘルプカー  
ド、ヘルプマークとあわせて御検討いただきたい  
と思います。

ヘルプカードは東京都以外に、東京都はもう2012  
年から全部で活用しているということで、京都府、  
和歌山県、徳島県など、2017年3月時点では1府7  
県66市町村ということでヘルプマークは全国で2016  
年末には16万個既に配布されているというもので、  
徐々に広がっていく、世界にも発信していきたいと  
いうことの中で積極的な対応をお願いしたいと思  
います。

そしてもちろん先ほども申し上げたように、つけ  
るつけないはその人の自由です。それと参考までに  
申し上げますと、越谷市もこの風呂敷大のもので  
すけれども、支援が必要としていますとか、この四隅  
に耳が聞こえませんか、体が不自由ですと書かれ  
たものも、それぞれの手帳を持っている方の全てで  
はなく、その40%を一応作製して、あるいはその  
作製費の中には寄附も、ライオンズクラブなんかの  
寄附もいただいて、100枚も加えたりして、そして  
希望者は取りに来てもらうという形だそうです。そ  
れと、一気につくるのではなくて、障害者ごとに、  
昨年、ことしと越谷市も分けてつくっているように、  
市民へのやはり意識啓発、そういう寄附もいただ  
けるようなマークになるように、いろんな意味で、ま  
た県からの出方では、先ほどから述べられています  
広報こさい等にも皆さんへの周知などの特集でも組  
んでいただいて、広報活動していただけるというこ  
とはいかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（山本 渉） 県のほうでは県下な  
るべく統一した形で進めていきたいということであ  
ろうかと思しますので、そういった中で県下市町で  
導入していくということになれば、当然、市民の方  
への周知も必要になってこようかと思しますので、  
またその折には広報等での周知も考えていきたい  
と思います。以上でございます。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） ありがとうございます。妊婦  
さん等のマーク等もありますが、今後はそういうも  
のを統一するという形でJ I S規格になったという  
ことですので、ぜひとも湖西市としてまた取り組  
んでいただきたいと思います。ありがとうございます

た。以上で終わります。

○議長（二橋益良） 以上で、6番 佐原佳美さんの一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 次に4番 高柳達弥君の発言を許します。高柳達弥君。

〔4番 高柳達弥登壇〕

○4番（高柳達弥） 4番 高柳達弥でございます。きょうは何か女性デーというのですか、朝からずっと4人の方がされたということですが、白一点で、私最後、質問させていただきたいなとそうふうに思いますので、よろしく願いいたします。

湖西市の道路整備促進について伺います。これまで道路整備はずっと進んでおりませんでしたので、新市長に期待して質問させていただきます。

質問しようとする背景や経緯でございますが、新・湖西市総合計画において、調和のとれた便利なまちを整備するための重要施策は、生活のかなめは道路にあるとあります。道路は、市産業や経済の発展はもとより、防災・減災対策及び交通安全対策など、市民生活に身近で最も重要な社会基盤の一つであります。公共交通が不十分な中、道路交通に大きく依存している現状では、道路整備推進は湖西市将来の都市像にも大きくかかわるものだと考えます。

影山市長は、定住人口をふやし、活力あるまちをつくるために、公約でもある道路の整備や拡幅などによって利便性の高い、安全・安心のまちづくりを積極的に推進するため、国・県にたびたび陳情を行っていることに対し、市民も心強く感じ期待をしているとこだと思います。

そこで、影山市長の道路整備への思いや取り組みについてお伺いしたいと思います。

質問の目的。道路整備の事業促進のため。

それでは質問に入ってよろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） はい、どうぞ。

○4番（高柳達弥） 質問事項1、道路の整備などについて、市長就任後、精力的に国・県へ陳情していると聞いていますが、その内容や状況について、お伺いしたいと思います。よろしく願いします。

○議長（二橋益良） 市長。登壇してお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

昨年12月に市長に就任をいたしまして、それ以降の要望活動の状況について、まず回数等々もお調べいただきましたので、まずそこを御紹介させていただきますと、ことし1月の下旬に、浜松三ヶ日・豊橋道路の建設促進期成同盟会で国土交通省をまず訪問をさせていただきました。平成29年度に入りましてからは、6月下旬から8月上旬にかけて、三遠南信道路の建設促進期成同盟会、浜松三ヶ日・豊橋道路の建設促進期成同盟会、また浜松地域国道1号整備促進期成同盟会、都市計画道路大倉戸茶屋松線道路整備の支援につきまして、国でいいますと国土交通省を4回、財務省を4回、国土交通省の中でも中部地方整備局を4回、浜松河川国道事務所、これも国土交通省の地方部局ですけれども、浜松河川国道を2回、静岡県を2回、愛知県に1回というふうに訪問をさせていただいております。この中でやはり湖西市の抱える、もちろん道路を中心にですけれども、諸課題について御理解・御要望を申し上げて、そして財政的な支援についても強く要望してきたところです。

ただこれはあくまでも、今申し上げたのは正式に期成同盟ですとかといったもので要望活動を行ったものでありまして、これ以外にも例えばほかの用事、例えば厚生労働省に別件で例えば病院とか医療関係で訪問したときには、そのついでと言っては何ですけど、隣にありますので、国土交通省に寄ってきて、担当者のところにもちょろっと寄ってくるとか、逆のこともありますけれども、そういった随時ですね、東京に行ったり、名古屋に行った出張、公務出張の際に別途国土交通省の道路局のほうに立ち寄って話をしてきたり、進捗状況を聞いてきたりと。もちろん、国土交通省に限らず、国土交通省に行った際に、ちょっと道路を横断して財務省のほうに行って、今国土交通省に行ってきたらということで財務省の主計局の道路担当のほうに同じ紙のコピーを渡してきたというようなこともありますので、この回数以外にも、ちょっとそこまでの回数まで私も把握しておりませんが、随時もちろんやってきておりま

すので、もちろん正規のものもこれから重ねていきたいと思えますし、18年、霞が関のほうにありましたので、そういった経験とか人脈も生かしまして、こういった湖西市の状況ですとか、やはり補助金も国の財政も厳しい中で、当然ながら満額は当然どこもつかないですし、その満額つかない中で、今までは10分の5の中でそのうちの2しかつかなかったものを、いかに3、4に近づけていくかということが重要になってきますので、そこはやはりこういった要望活動で湖西市の現状とか状況を説明するということが重要になってくるというふうに、今までの経験上思っていますので、そこをしっかりとこれからも状況説明等々はみずから足を運んで重ねていきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 高柳達弥君。

○4番（高柳達弥） どうもありがとうございます。ちょっとメモをする、回数がメモできないほどたくさん陳情に行ってると感じました。

それで、陳情する中でこのぐらい、ある程度効果というか、こういうように成果が上がったとか、そういうような、こういうふうに何回も行ったもんですから、ある程度こういうようになってきたというようなことがあれば、お話することがあれば、お話ししていただければと思うんですけどが。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

要望活動もなかなか1回行ってすぐというものではないので、これはやはり息を長く、同じ案件でも何度も行くということも必要でしょうし、これはまだ、私もまだ1年たってませんので、これからの継続が必要かなというのも思っています。今、国のほうでは平成30年度の予算編成が始まったばかりというか、今概算要求を締め切って、編成が始まったばかりですので、その中でも数字にどれぐらいというか、なかなか明確にあらわれるものは少ないので、箇所づけの中であらわれていくことが多いかと思えますけれども、あえて申し上げるとすれば、浜松三ヶ日・豊橋道路に関しては、まだ就任前ですけれども、去年の9月ごろに国土交通省とか財務省に伺った際には、道路局長の顔が相当険しかった覚えはあるん

ですけれども、大分ことしの春ぐらいから変わってきたなというか、実際にこの前8月10日には、国土交通省の肝いりで実際の事業化に向けた協議会を立ち上げていただきましたし、そういったものは去年の12月ごろですか、予算編成のときにも大分、少しずつですけれども変わってきました。それでこの半年間で大分浜松三ヶ日・豊橋道路に関しては前に進んだなというのは実感はあります。

そういった象徴的なものがあればこれからもそういったふうに紹介していきたいと思っておりますけれども、ほかにももちろん道路以外でも、浜名湖の西岸地区の区画整理等々、さまざまな事業がありますので、もちろん、ハード事業以外にも厚生労働省関連では医療とかソフト面での事業もあります。そういったものは、これはという形で明確に紹介できればもちろん紹介していきますし、なかなか表には出ない部分もあるかもしれませんが、人材の紹介であったりとか、そういうものもいただいておりますので、そういうところは引き続き行っていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 高柳達弥君。

○4番（高柳達弥） ありがとうございます。市長が陳情に行くもんですから、道路だけというわけではないと思います。先ほどの厚労省とかあちこち行ったということで、道路以外にもいろいろ湖西市の重要な課題について陳情してると思いますので、そのことについてお聞きしたいと思ってるんですけどが、今触れられましたので、やめます。

それで今、浜松三ヶ日道路の陳情も進めてるわけで、あるわけですけどが、陳情を重ねる中で、これ広域的にお願いしてるということですけどが、この道路というものが先にどのくらい、めどというですか、陳情するものですから大体このぐらいにはある程度こういうことが進めるぐらいにお願いしたいなとかということで、市長としてそういう目算というんですか、そういうのがあればお聞きしたいと思うんですけどが。それで私たちのほうの議会のほうも、三遠南信、浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進議員協議会賛同議員ということで、これに市の議員も出られておりますし、またこの湖西市の議会としても市長

を中心に何回も陳情もさせていただいてるわけですが、そういう中で、将来的にこういうふうないうめどで行きたいなというようなことがあればお話できればお聞きしたいなと思うんですけど、どうですか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

浜松三ヶ日・豊橋道路に関しては、先ほど申し上げた事業化に向けてやっとな今年度、29年度予算で初めてその調査をするといったことが予算的にも計上いただいて、国土交通省でこの夏から具体的な起点とか終点とか、具体的なルートですね、そういったものを具体的に検討するというような取り組みが今始まったばかりです。やはり道路はそんな1年とか2年というような、特に高規格、いわゆる高規格道路、高速道路ですので、そう簡単に、例えば用地買収があったりだとか、手続もありますし、そう短期間でできるものではないという現実も承知してはいますが、それはもちろん先ほどの福永議員の質問でもあった北部地域ですとか、やはり影響がまだ、具体的なルートは決まっていなくて、どこをというのはなかなかピンポイントには言いにくいですが、北部地域を中心に、やはり新東名だったり、東名高速道路からのジャンクションから、こちらのほうに南北の高規格道路となって愛知県の三河港に向けて伸びていくというような道路は、かなりのストック効果があるとも思いますし、それは当然地元企業からも物流の効率化、もしくは地元の方々からも災害のときの輸送道路としての要望はいただいておりますので、一刻も早くということで取り組んでいきたいと思っています。

やはり先ほどの北部のいろんな公共施設だけではなくて、人口減少とかそういったものはこういった起爆剤というか、例えばそういったものが道路が通るイコール例えばインターチェンジであればそこからの出入りが活発になる。そこでこの前の新東名もそうですけれども、その時点で工業団地であるとか、宅地であるとか、お店であるとかということは、実際に波及効果がありますので、そういったものが今回のこの浜松三ヶ日・豊橋道路でも出るように、ルートも含めてできる限り早期に取り組んでいき

たいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 高柳達弥君。

○4番（高柳達弥） ありがとうございます。先日、市長さんからの報告では、たびたび陳情を重ねる中で、湖西市が広く知られるようになって、方々で声をかけていただいているというような報告を聞きましたですが、そういうことで本当に陳情の効果があらわれてるんじゃないかなと、そんなふうに感じたのですが、ちょっとある県の知事が、自分は県のセールスマンとして全国を回り、県のPRをしていると話していましたが、影山市長にも湖西のセールスマンとして、大いにPRして湖西市の知名度を上げていただくように、これからもお願いしたいなとそんなふうに思います。

では次、2番に行きたいと思うんですけど。

○議長（二橋益良） どうぞ。項目2ですね。

○4番（高柳達弥） 都市計画道路の主要路線及び市内幹線道路等の整備状況と事業計画の状況をお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 都市整備部長。

○都市整備部長（片山彰宏） 最初に都市計画道路と市道の整備状況についてお答えいたします。

都市計画道路でございますが、市内に29路線、総延長で5万9,650メートルございまして、このうち4万770メートル、率にいたしますと約68%が平成28年度末時点で整備済みとなっているところでございます。

また、道路法に基づく市道につきましては、都市計画道路と重複した区間を含めまして、市内に2,648路線、総延長といたしまして66万6,000メートルございまして、このうち改良済みの区間の延長は平成28年度末時点におきまして31万9,000メートル、率にしますと約48%となっております。

次に、事業計画の状況についてお答えいたします。

現在、実施計画に基づく事業中の箇所でございますが、新所原笠子線、新所原駅嵩山線、鷺津駅谷上線、大倉戸茶屋松線の4路線4区間で、事業区間の総延長は2,490メートルとなっております。

これらの事業の平成28年度末時点における進捗状況でございますが、事業費ベースで約3%となって

おり、それぞれの事業区間におきましては予定している事業完了年度に向け、着実に事業を推進していきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 高柳達弥君。

○4番（高柳達弥） ただいま御報告ありまして、4路線ということで、大変それで68%の改良率ということで、大変努力されてるなと思うんですけど、この都市計画道路の決定というのが、昭和38年ということで、それから50年近くたって、この68%の改良率というのはいいんですけど、やはりこれ、もっとこれから100%に向けてどんどんやっていく必要があるんじゃないかなと思ってるんですけど、この予算的なものはあるしあれですけど、この19路線ですか、これが最終的にいつごろまでにこれ整備されるのかということで、総合計画でも10年単位でこういうふうに、この路線やるよということですけど、その10年でできなくて、またその次の新総合計画でまた繰り越し、繰り越しといくようになるもんですから、ある程度この50年たっておる中で、やはりある程度98%とか、ある程度めどをたてるような形で進めるように、特にこれは部長に言ってもあれなもんですから、市長のほうで特に頑張りたいなとそんなふうに思います。

やはり今までこういう道路を余り進められてこなかったというのは、一部では、もう道路整備は必要ないんじゃないとか、現状の道路整備で十分ではないかというような方、そういうふうに言われる方もあるわけですが、やはりそういうわけには、そういうことは当てはまらないと思います。やはり他地域との比較とか、この市の施策目標から見れば、どうしてもこういうことが必要で、わかると思いますけど、やはり他地域との比較で行きますと、やはり隣接市と比較して、整備が大変おくれてると。また、湖西市の道路は狭くて、ほかから来ても迷路のようになってしまうということで、余り印象もよくないとか、また道路の未整備部分で事故が起きてるというようなことで、これが他地域との比較だと思いますけど、あと政策目標では、やはりこの主要地域を結ぶ道路ネットワークの整備とか、生活道路

の整備とか、高規格道路へのアクセス道路の整備が必要とか、まだまだこれから整備が必要なのがたくさんあると思いますので、これからも続けて、進めていっていただきたいと思うわけですが、やはりまちづくりの基本は道路整備にあると考えますが、道路の新設改良と整備効果は、沿道サービス、関連施設や土地の開発の兼ね合いとなり、住宅建設もまた要因になり、自然発生的にそこへまちがつくられ、またあわせて土地の評価が上がり、市税の増収にもつながるといっていただけますので、県では産業の発展と暮らしの豊かさ実現のため、ふじのくに道づくりを進めております。本市の道づくりこそ、市長の言っている活力あるまちづくりにつながると考えますが、そこで今、道路実施計画の有無にかかわらず、市の将来のため、優先的にどうしても整備していきたい市道があれば、所管部長の考えをお伺いしたいなとそんなふうに思います。

○議長（二橋益良） 都市整備部長。

○都市整備部長（片山彰宏） 道路整備事業にエールを送ってくださりまして、まことにありがとうございます。私ども都市整備といたしましては、今後整備を行いたい路線は数多くございますが、その中でも主要な整備必要箇所を数カ所申し上げますと、横須賀橋郷北線の鷺津駅の西側踏み切りの歩道設置、それから日の岡入出知波田線の弁財橋及び新所S字カーブまでの道路、新所原駅嵩山線の新所原駅からアスモ南交差点までの道路改良、松山弁天線の新居弁天インターチェンジ出入り口から住吉公民館北交差点までの道路改良、それから岡崎本線の県道新所原停車場日の岡線大森交差点から岡崎公会堂を通過して前向公園までの道路改良、それから分川一の橋線の旭町交差点からフジユニバンスまでの道路改良などが挙げられます。

この場で思いついたのは以上の路線でございますけども、我々都市整備といたしましては、早々の整備を行う必要性を感じている路線ばかりでございます。以上でございます。

○議長（二橋益良） 高柳達弥君。

○4番（高柳達弥） ただいま6路線だったと思いますが、どれも地域では本当に重要な道路だと

いうことで、重要なまた整備箇所でもあると思いますので、また市長のほうも早急に検討していただければと思います。

では3番に移ります。

現状の道路整備状況に対し、従来の予算規模を見直し、道路整備による投資、経済効果など広く考察し、市長の公約である活力あるまちづくりが推進できるよう、予算の増額が必要と考えますが、市の考えをお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今の議員からの御指摘もそうですし、部長からも答弁をさせていただきましたけれども、やはり道路整備によりますストック効果、これは今おっしゃったまちづくりの中でやはり道路をつくるという公共事業だけではなくて、それに伴う沿道の整備、宅地等々の整備効果、また渋滞の解消ですとか、さらには安全面ですね、やはり通学路、毎日子供たちが通っている通学路、これはまだ歩道がないところも多くあります。そういったものも含めての事業の進捗は、極力やはり進めていきたいというふうに考えております。

一方で今議員からも御指摘ありましたけれども、財政状況がこれもほかの事業も含めてですけれども、財政事情に関しては、ことしの29年度の当初予算では9億6,000万を財源不足によって財政調整基金から取り崩すというような現実もありました。約10億円を基金から取り崩さざるを得なかったと。市の貯金を取り崩したということもあります。

来年度以降におきましても、これも議員の皆様よく御案内のとおり、合併算定がえの段階的な縮減で、毎年2億5,000万減少していくと。さらにその結果、平成32年度には6億2,000万、今年度29年度に比べてですけれども、6億2,000万ほどが自然減してしまうというような厳しい状況が待っているわけがあります。その中でも何とかこのストック効果に着目しながら道路整備は続けていきたいと思っていますし、もちろんそれ以外のまちづくりには教育ですとか、防災、福祉、そういった全体のバランスをとりながら、やはりトータルでこのまちが住みやすくな

るような投資が必要だというふうに思っていますので、財源はやはり限られておりますけれども、それを効率的に効果的に配分をしていく。もちろん、ほかの質問の中でもありましたけれども、さらに歳入を上げるような、稼げるようなまちづくりにしなければならぬと思っていますので、これは鶏・卵かもしれませんが、道路の整備によって経済が活性化するとか、そういったものも含めながら、歳入増も図りながら、効率的・効果的に歳出を行っていきたいというふうに、道路整備も含めて、しっかりとやってまいりたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 高柳達弥君。

○4番（高柳達弥） ありがとうございます。市長は財務省にいて、財政のプロでございますので、湖西市の財政のことでは本当にわかると思いますので、よろしく願いいたします。

これから予算の時期でもありますので、予算をしっかり精査していただいて、道路整備が見える形で進むように、市長の手腕を御期待いたしまして、質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（二橋益良） 以上で、4番 高柳達弥君の一般質問を終わります。

これをもちまして、本日予定しておりました一般質問を終わります。

---

○議長（二橋益良） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでございました。

午後3時02分 散会

---